

# 沖縄県高校生調査 詳細分析概要

平成30年7月9日

沖縄県子ども生活福祉部

(受託者 沖縄県子ども調査事業共同体)

# 調査概要①

## 1 調査目的

沖縄県内の公立高校2年生とその保護者に対し、沖縄県に住む高校生を取り巻く社会や経済の状況がどのように今後の進路や将来の希望、日常生活などに影響しているかを調べ、今後の進路支援や子育て環境への対策を検討していくことを目的として沖縄県教育委員会の協力のもと、沖縄県からの業務委託を受けて、一般社団法人沖縄県子ども総合研究所が実施

## 2 調査期間

平成28年11月21日(月)～12月2日(金)

## 3 調査対象

調査対象高校 沖縄県立高校全60校(全日制・定時制含む)

対象学年 高校2年生

(平成28年5月1日在籍生徒数14578人の50%)の生徒とその保護者

※対象学年の各学級の50%が対象となるよう抽出

回収状況	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
高校2年生両票あり	7289	4572	4311	59.1%
(生徒票のみ)			4471	61.3%
(保護者のみ)			4383	60.1%

# 調査概要②

## 4 世帯経済状況別分析について

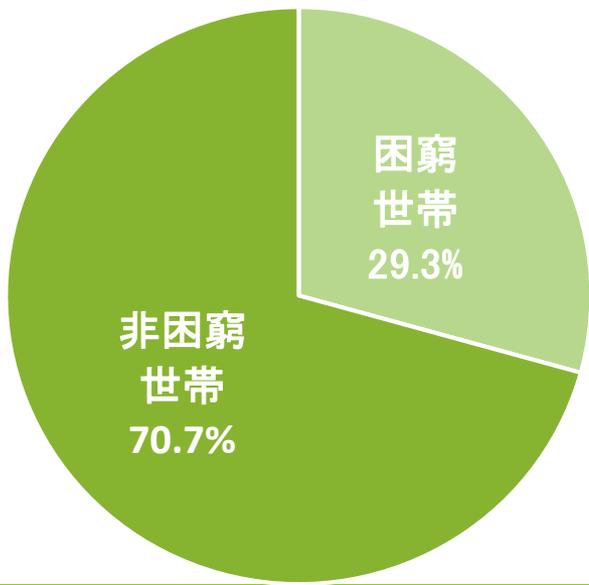
本調査では、回答を世帯ごとに「困窮世帯・非困窮世帯」の2区分に分けて分析を行った。

区分けに関しては、本調査保護者への世帯の所得に関する設問項目から、あらかじめその世帯の収入額を推計し、世帯人数(生計が一である家族の人数)の平方根で割り等価可処分所得を算出し、以下の基準に基づき困窮・非困窮世帯に区分けを実施した。

なお、本来の貧困ラインとは異なる基準のため、「困窮世帯・非困窮世帯」と呼称している。

### (本調査における等価可処分所得額による分類の基準)

本調査では、困窮世帯を区分けする基準として、平成25年国民基礎調査から算出された貧困ライン(122万円)に消費者物価指数(CPI)の変動から算出された係数(103.95)を掛けた127万円としている。



等価可処分所得額	区分
127万円未満の世帯	困窮世帯
127万円以上の世帯	非困窮世帯

# 中間報告と詳細分析について

## 1 中間報告(平成29年3月6日)

本県高校生の課題となり得る可能性のあると想定した項目について、先行して分析作業を行い、平成29年3月6日に中間報告を行った。

これにより、困窮世帯の保護者の約21%が生活保護制度をよく分からないことが明らかとなったほか、困窮世帯の高校生の約47%がアルバイトを経験し、その使途として約34%が家計の足しにしていることや、高校への通学手段では全体の約半数の世帯が家族による送迎で通学しており、家族を送迎する理由では交通費削減という経済的理由が約23%と最も多いことが分かった。また、進路の選択にあたっては困窮世帯の生徒は成績にかかわらず就職を希望する割合が高いことなどが分かった。

## 2 詳細分析(平成30年3月30日)

中間報告を踏まえ、生活保護制度の利用状況や、通学にかかるバス及び家族の送迎利用、進学及び就職の希望理由、部活動の状況、アルバイトの状況と使い途などを経済状況別(困窮・非困窮)、世帯構成別(ふたり親・ひとり親)で詳細に分析したほか、生徒の自己肯定感などの分析も行った。

中間評価分析項目	
1	現在の暮らしについて(保護者票)
2	生活困窮状況(保護者票)
3	生徒のアルバイトの状況について(生徒票)
4	高校生等就学支援金制度の利用について(保護者票)
5	高校への通学手段について(保護者票)
6	高校進学時の進路決定について(保護者票)
7	卒業後の進路について(保護者票)(生徒票)
8	保護者の地域や友人とのつながり(保護者票)
9	自由記述欄概要(保護者票)(生徒票)



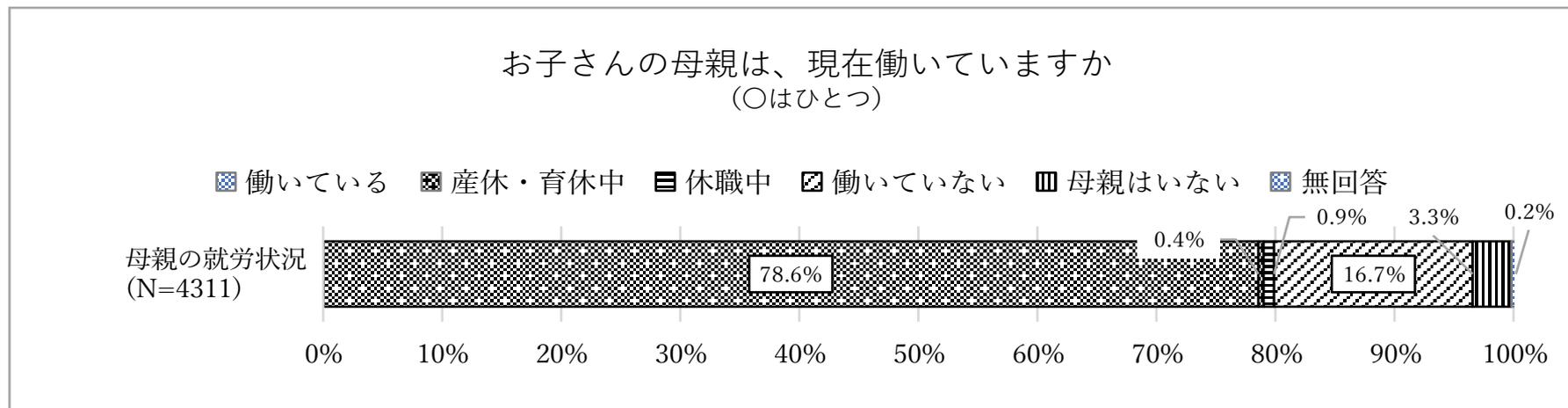
詳細分析項目	
1	保護者の就労(保護者票)
2	生活保護制度の利用(保護者票)
3	通学(保護者票)
4	将来(進学・進路の希望)(生徒票)
5	部活動・就労(アルバイト)(生徒票)
6	自分(生徒票)
7	自由記述欄概要(保護者票)(生徒票)

# 1 保護者の就労状況

---

# 1 保護者の就労

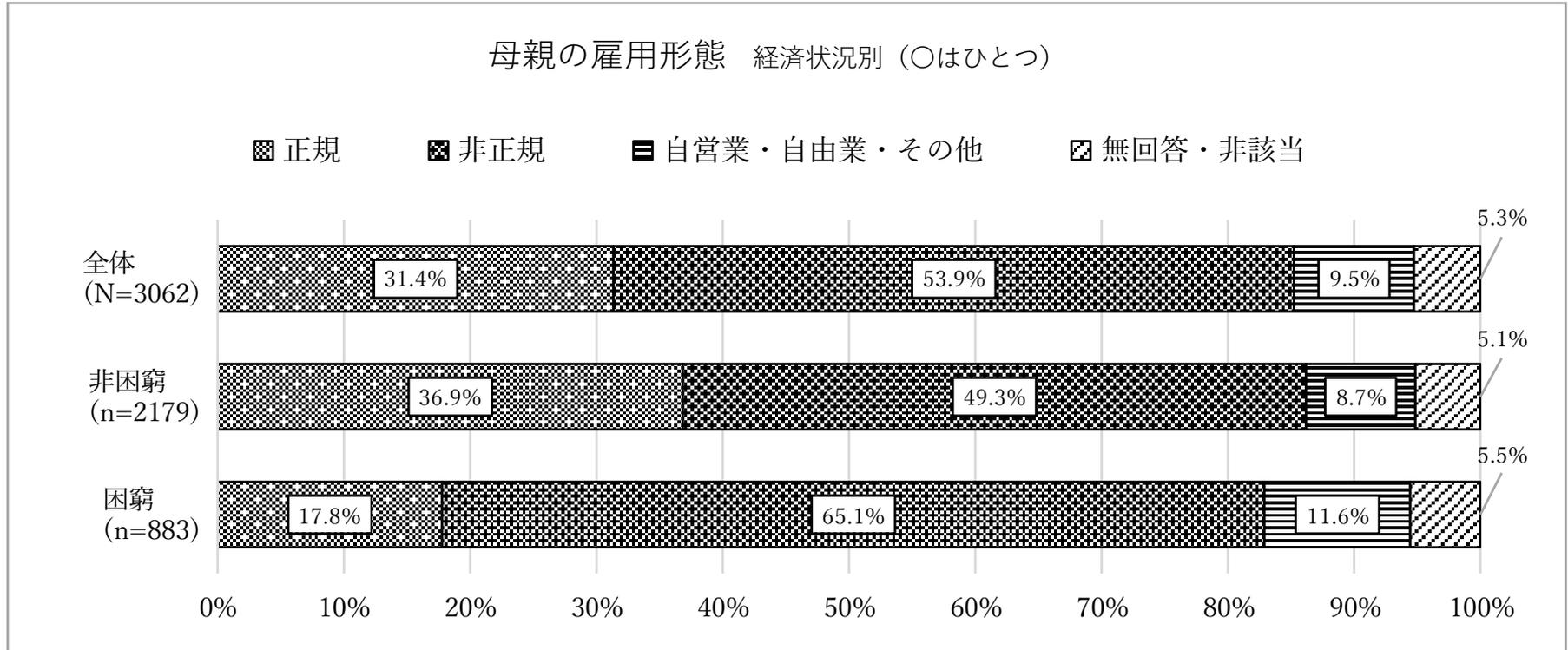
## 1-1 母親の就労状況【図1-1-1】 ※再掲



保護者の就労状況を見ると、回答者のうち、母親は78.6%が就労しています。

# 1 保護者の就労

## 1-1 母親の就労状況【図1-1-3】

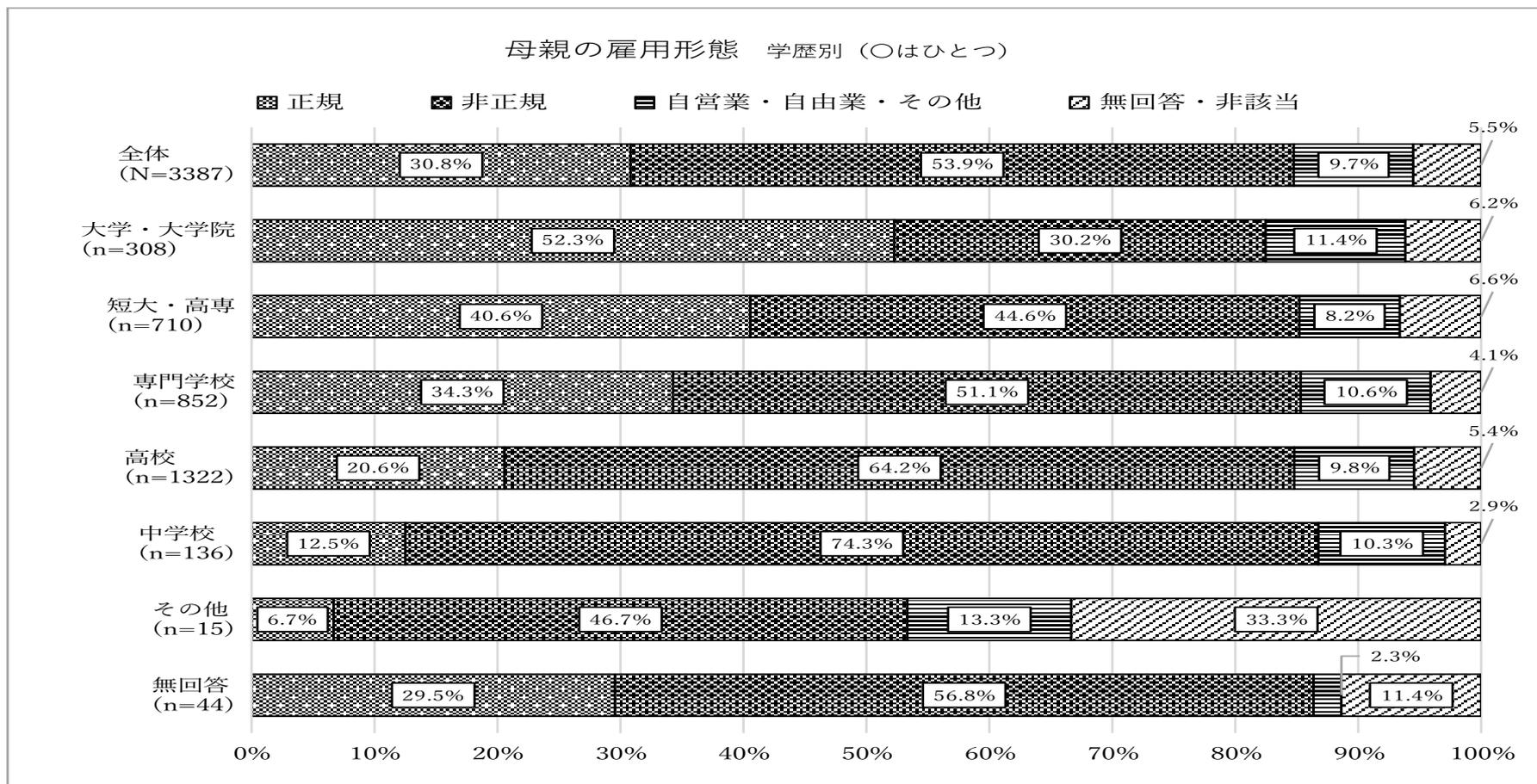


経済状況別にみると、非困窮世帯では正規が36.9%であるのに対し、困窮世帯では17.8%にとどまります。困窮世帯では、非正規が65.1%に及んでいます。

## 1 保護者の就労

## 1-1 母親の就労状況【図1-1-4】

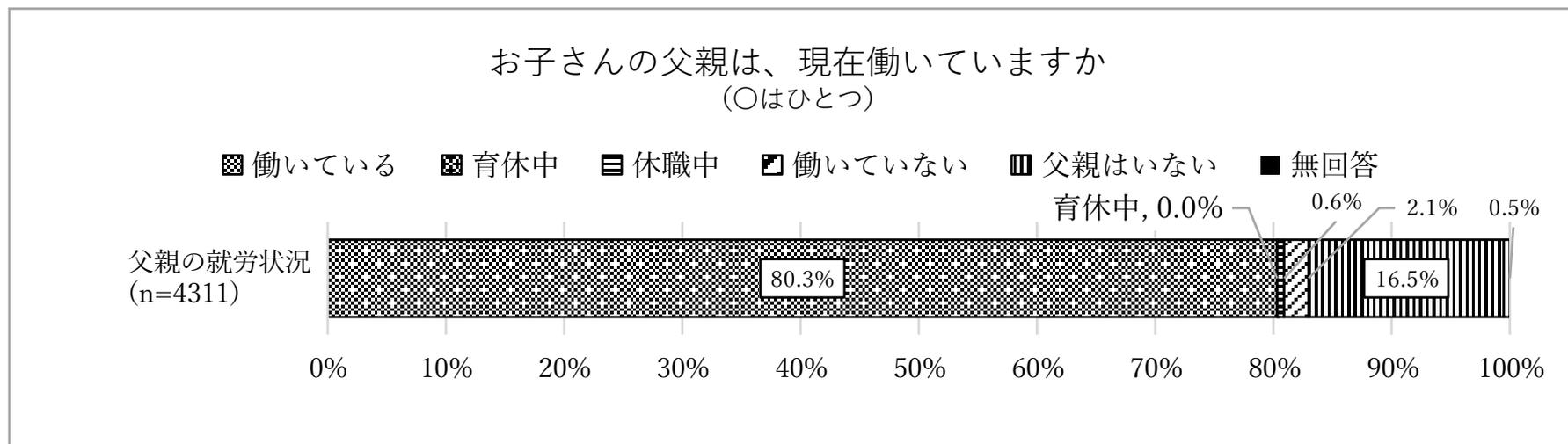
母親の雇用形態 学歴別 (○はひとつ)



母親の最終学歴別を見ると、大学・大学院卒では、正規の割合が52.3%に対し、中学校卒では、12.5%となっています。非正規の割合は、大学・大学院卒では30.2%に対し、高校卒では、64.2%、中学校卒では、74.3%となっています。

# 1 保護者の就労

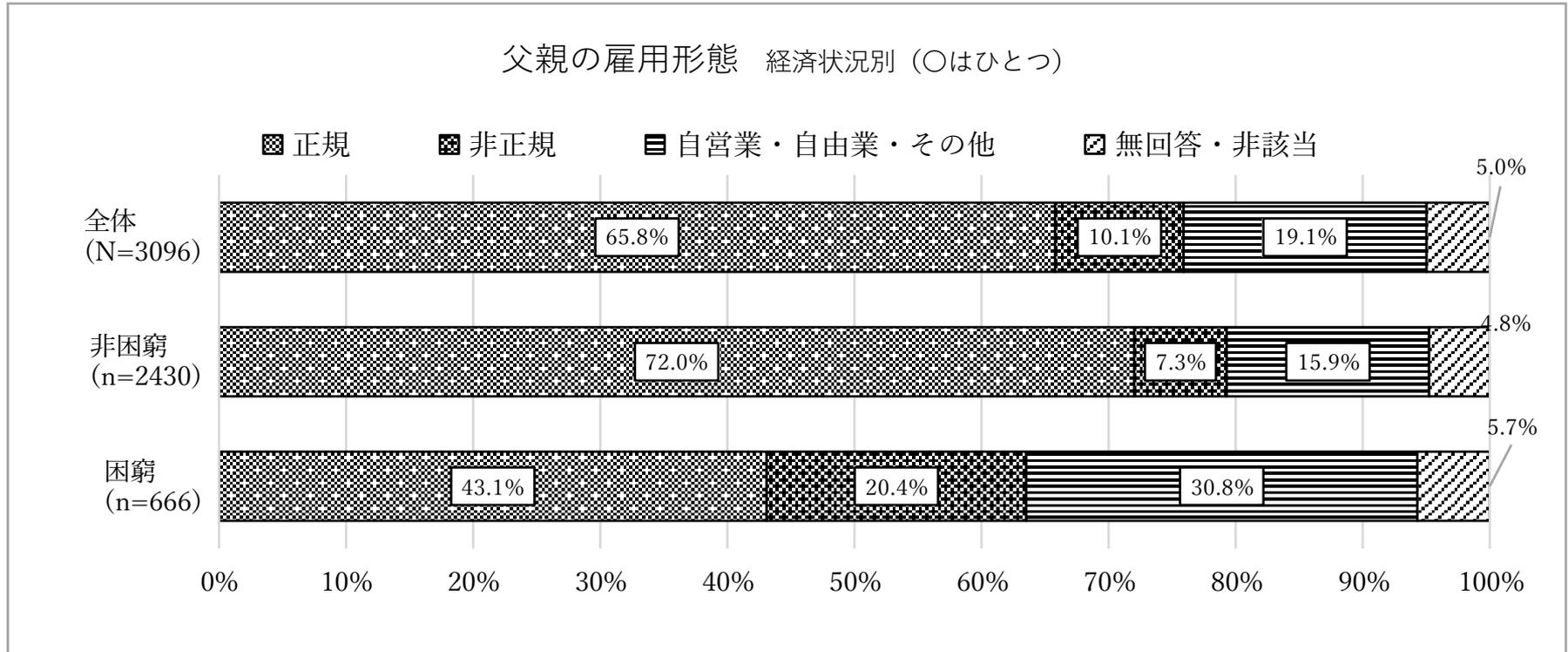
## 1-2 父親の就労状況【図1-2-1】 ※再掲



父親の就労状況を見ると、80.3%の父親が就労しています。

# 1 保護者の就労

## 1-2 父親の就労状況【図1-2-3】

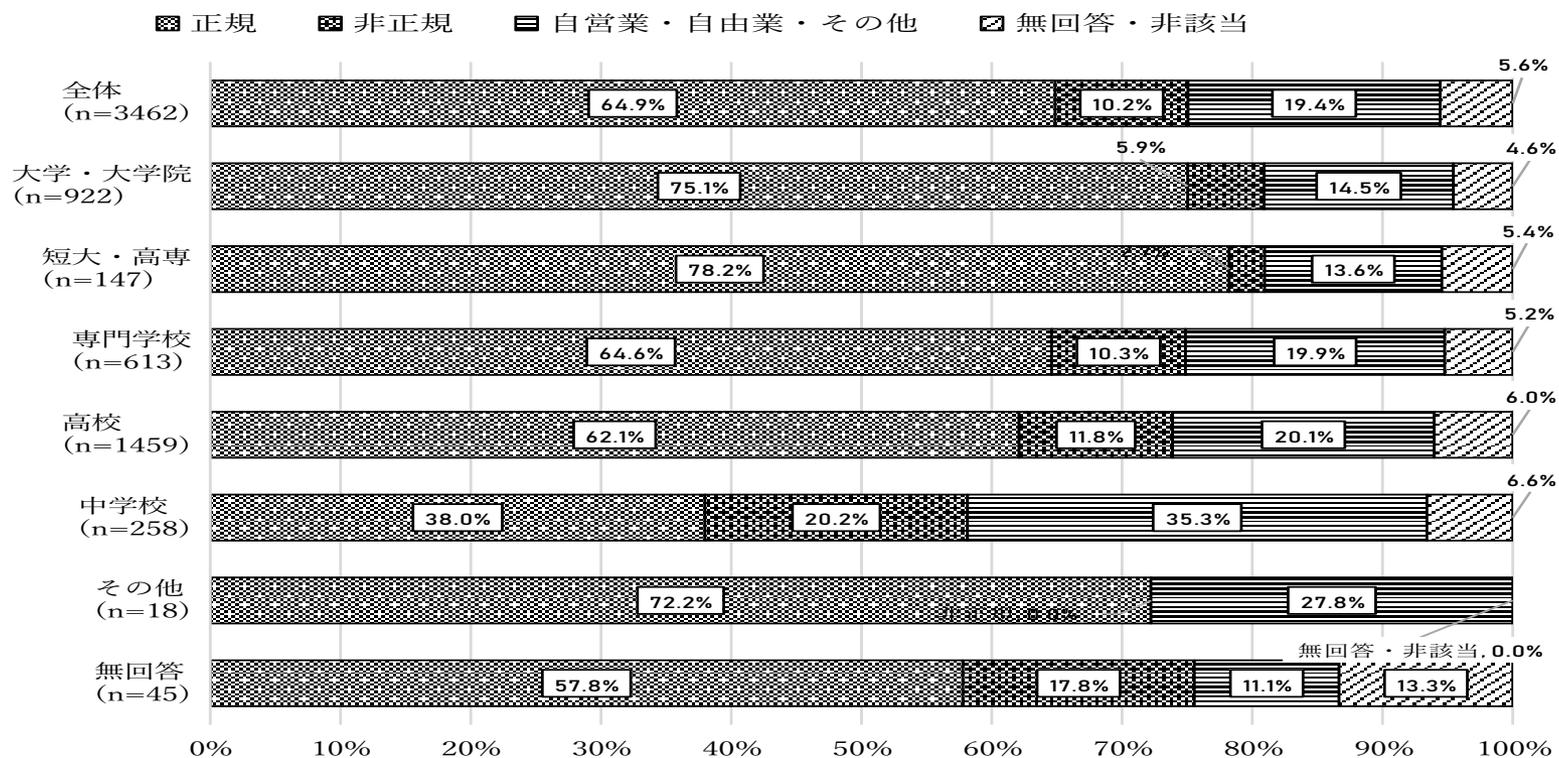


経済状況別にみると、非困窮世帯では、正規が72.0%であるのに対し、困窮世帯では正規は5割を切り43.1%という現状です。困窮世帯では、非正規が20.4%、「自営業・自由業・その他」が30.8%となっています。

## 1 保護者の就労

## 1-2 父親の就労状況【図1-2-4】

父親の雇用状況 学歴別（○はひとつ）



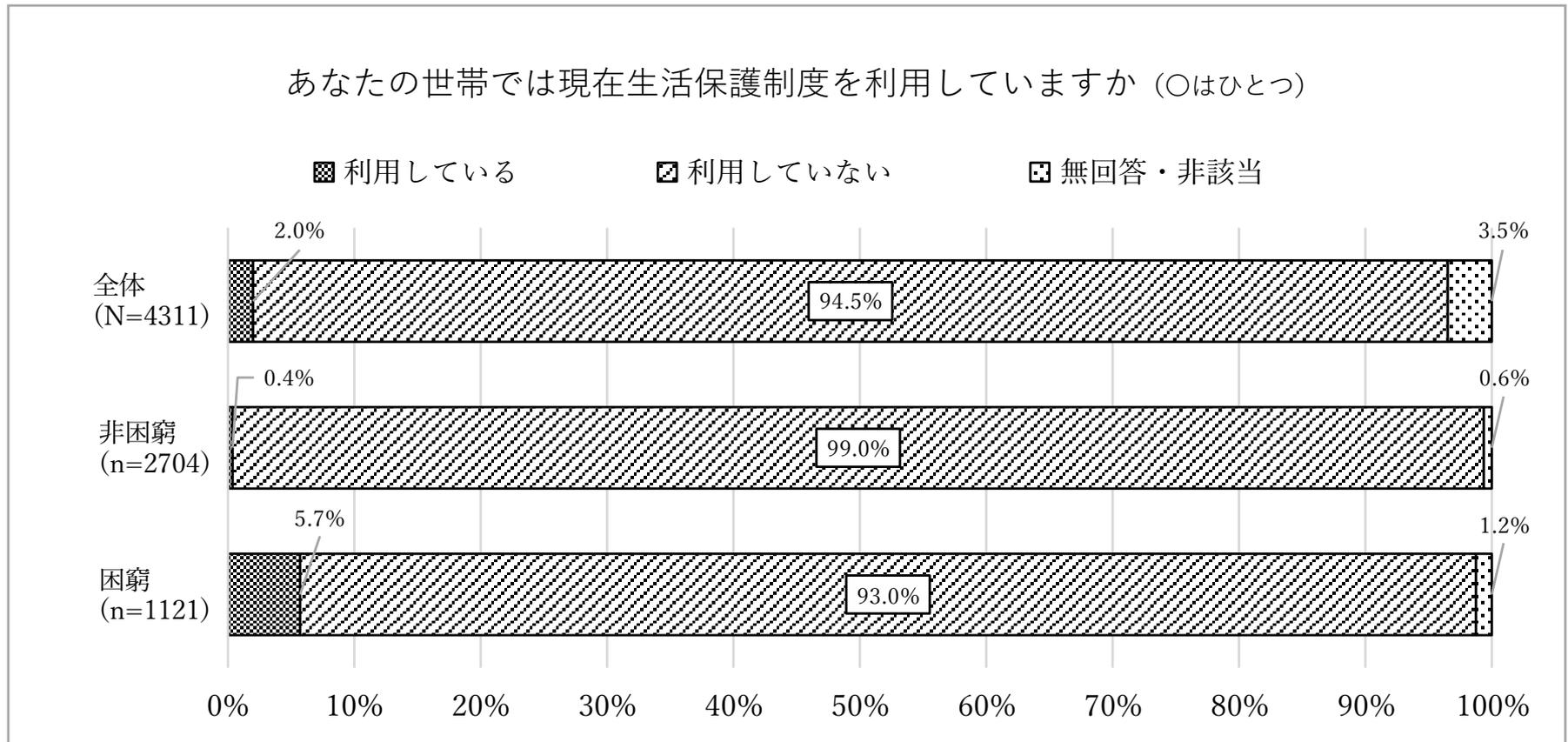
父親の最終学歴別に見ると、大学・大学院卒では、正規の割合が75.1%に対し、中学校卒では、38.0%となっています。

## 2 生活保護制度の利用

---

## 2 生活保護制度の利用

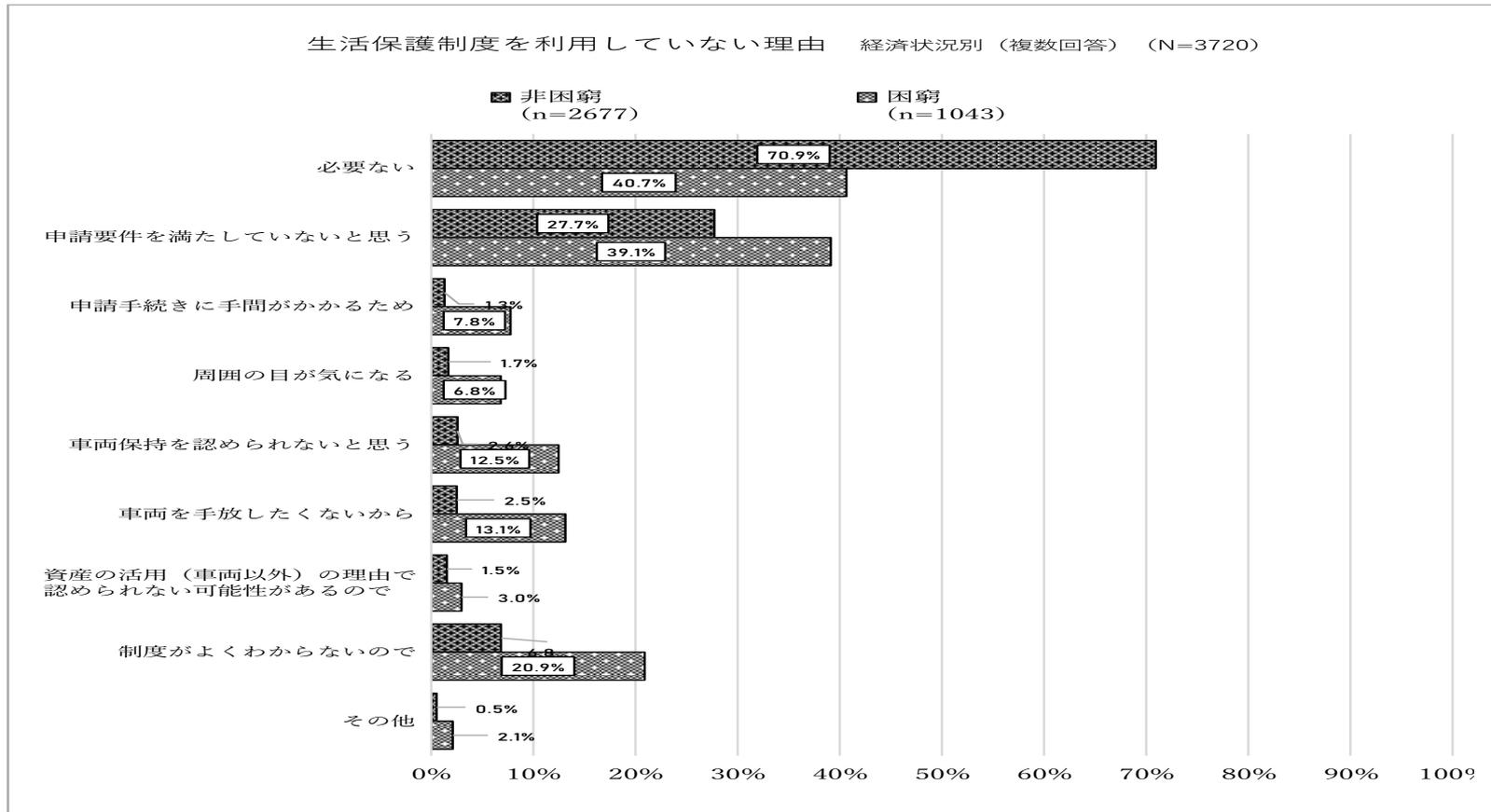
### 2-1 生活保護制度の利用状況【図2-1-1】



生活保護制度の利用状況を尋ねたところ、4311世帯中、利用している世帯が86世帯(2.0%)、利用していない世帯が4075世帯(94.5%)でした。

## 2 生活保護制度の利用

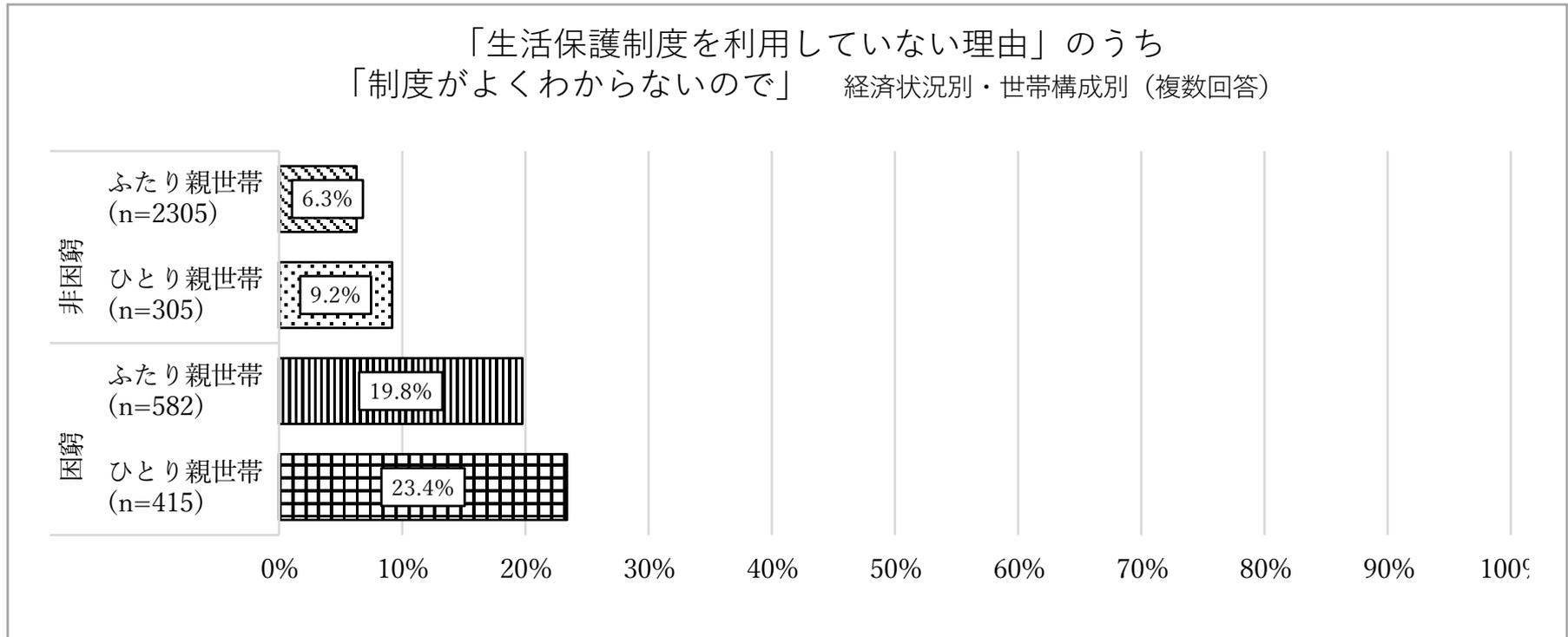
### 2-1 生活保護制度の利用状況【図2-1-2】



経済状況別に「利用していない理由」を尋ねたところ、「非困窮」世帯では、「必要ない」が70.9%と高く、「申請要件を満たしていないと思う」が27.7%と続きます。「困窮」世帯では、「必要ない」(40.7%)が「非困窮」世帯よりも約30%低い一方、「申請要件を満たしていないと思う」39.1%、「制度がよくわからないので」20.9%、「車両を手放したくないから」13.1%、「車両保持を認められないと思う」12.5%など、回答が分散しています。

## 2 生活保護制度の利用

### 2-1 生活保護制度の利用状況【図2-1-5】



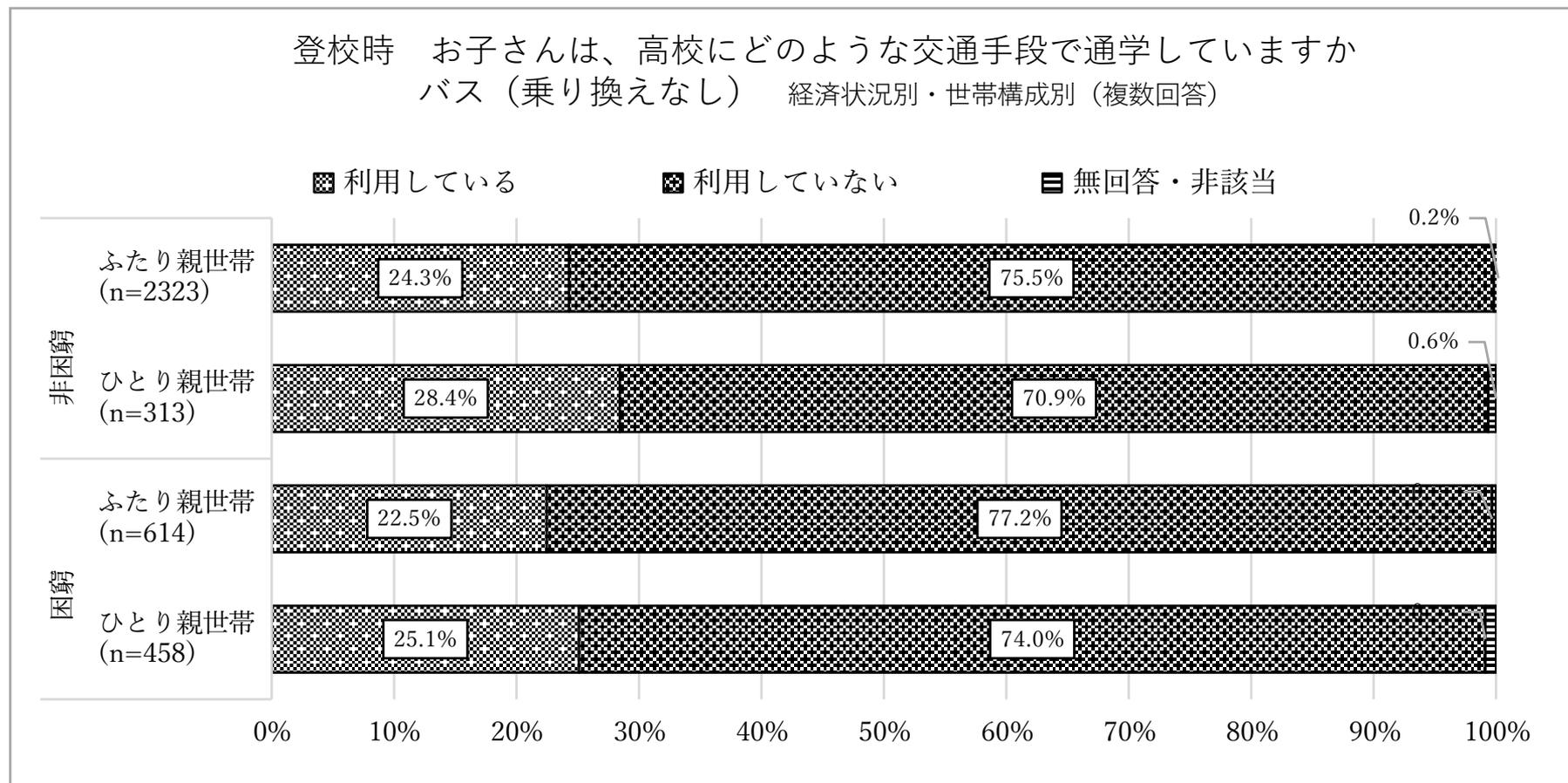
生活保護制度を利用していない理由を「制度がよくわからない」と答えた世帯について、経済状況別・世帯構成別で見たところ、ふたり親・ひとり親世帯とも非困窮世帯に比べ困窮世帯の方が13～14%程度高くなっており、困窮世帯においても、ふたり親世帯の19.8%に比べひとり親世帯は23.4%と高くなっている。

# 3 通学

---

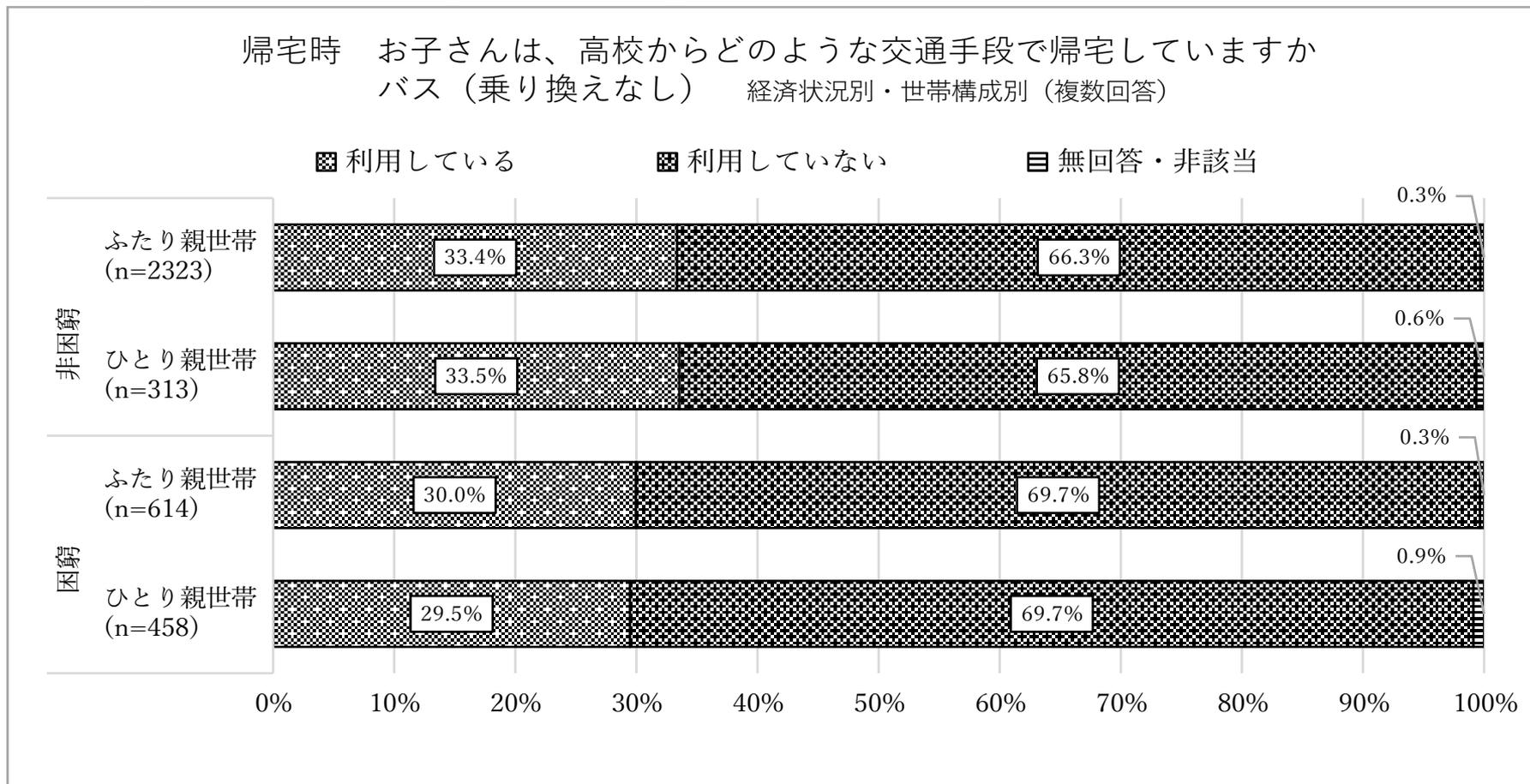
## 3 通学

## 3-1 登校時のバス利用【図3-1-1】



## 3 通学

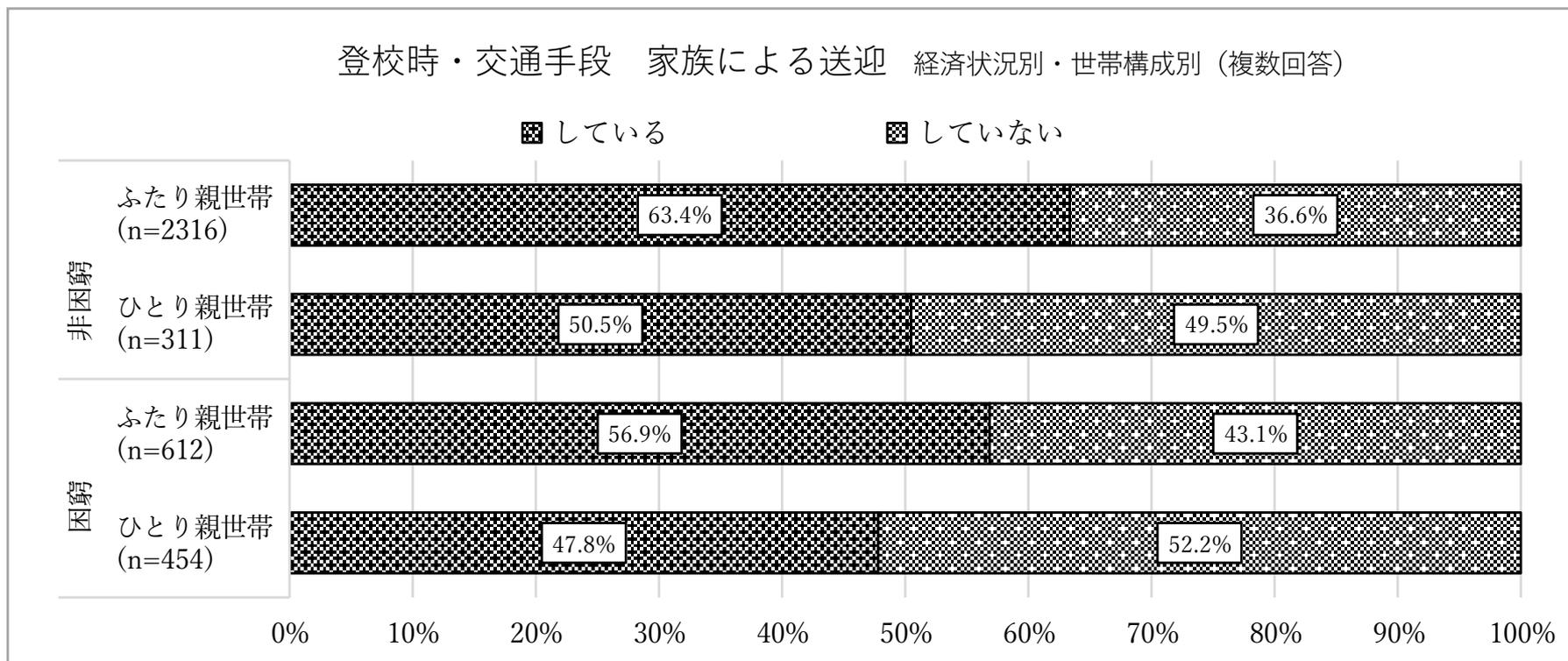
## 3-1 帰宅時のバス利用【図3-1-2】



登下校時のバス利用等について、保護者に尋ねたところ、登校時、帰宅時ともに経済的な差が見られ、「困窮」世帯に比べ、「非困窮」世帯の方がバス利用の割合が高いことが分かります。また、帰宅時にはあまり見られない傾向ですが、登校時にはひとり親世帯のほうがふたり親世帯に比べ、バス利用が多いことが伺えます。

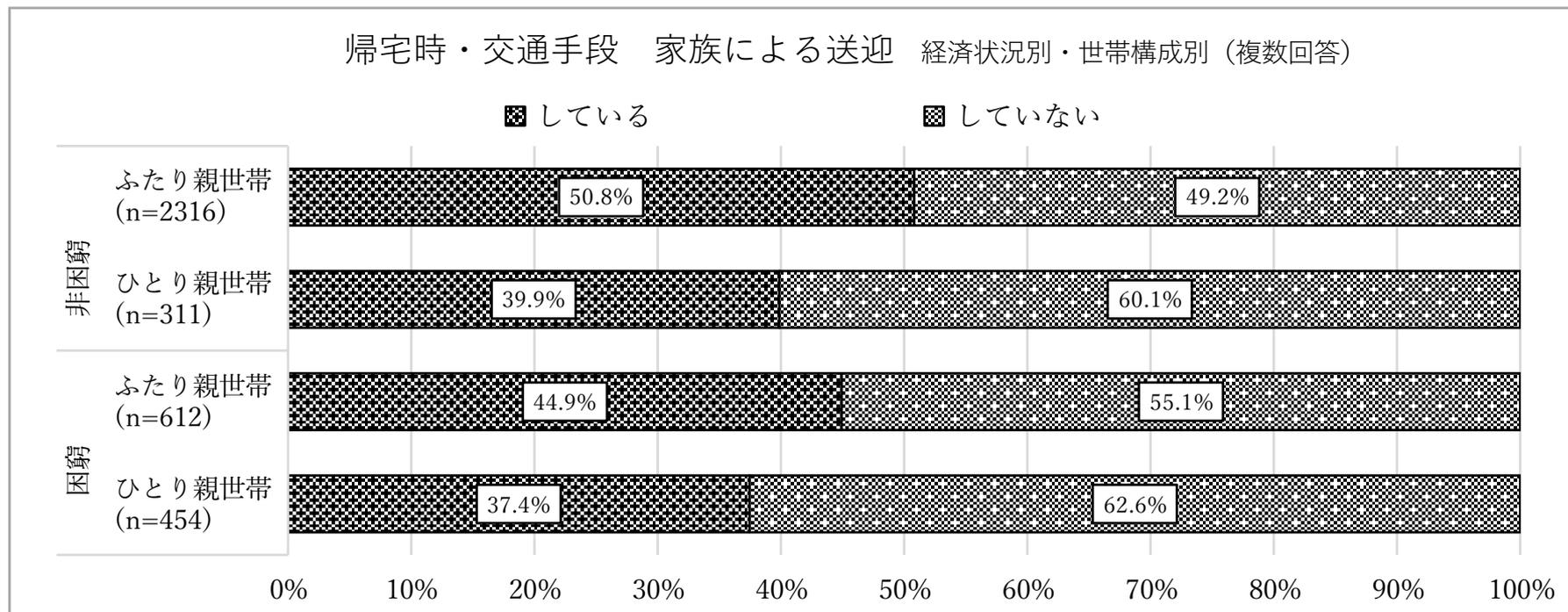
## 3 通学

## 3-2 登校時の家族による送迎【図3-2-1】



## 3 通学

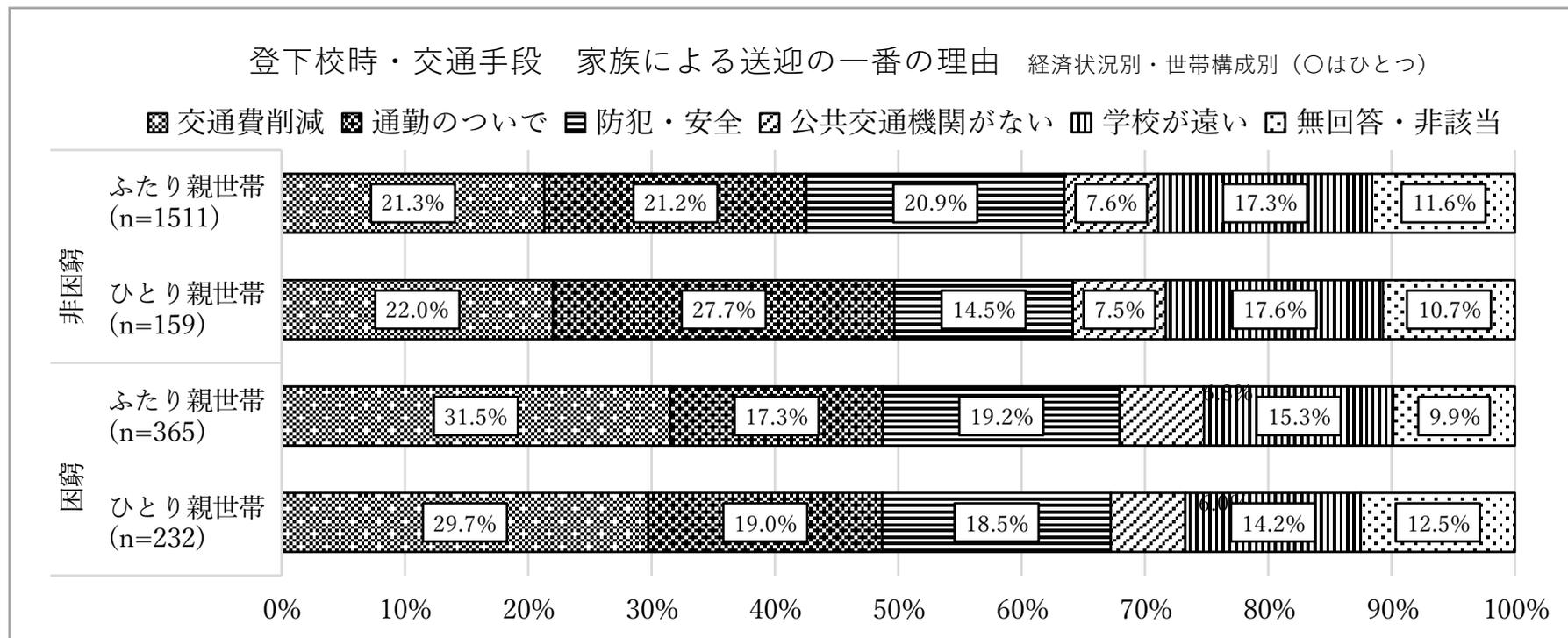
## 3-2 帰宅時の家族による送迎【図3-2-2】



家族による送迎の有無について「困窮」世帯に比べ「非困窮」世帯のほうが、ひとり親世帯に比べふたり親世帯のほうが、家族による送迎がある傾向が見られます。

## 3 通学

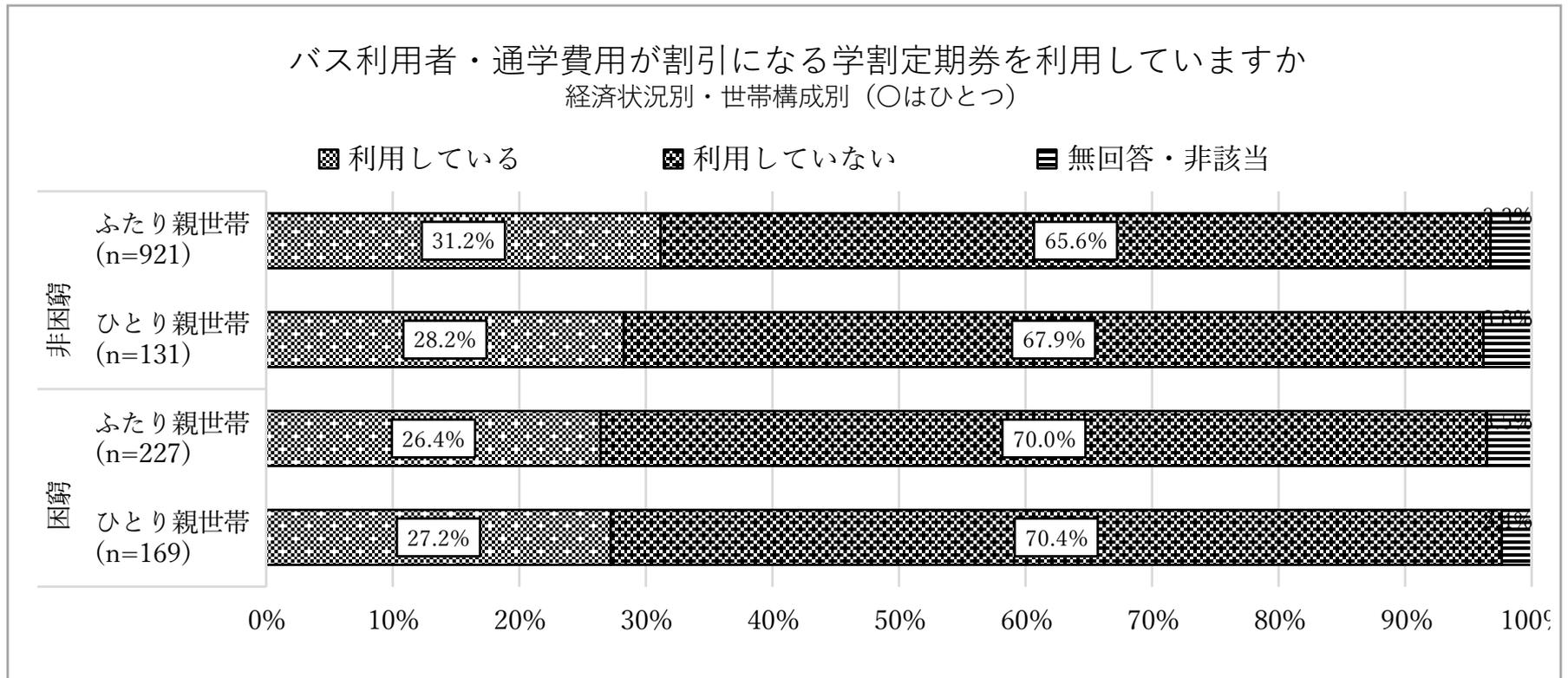
## 3-2 帰宅時の家族による送迎【図3-2-3】



送迎の理由としては、「非困窮」世帯に比べ「困窮」世帯では交通費削減を主な理由とする傾向が高く、「非困窮」世帯では通勤のついでとする傾向が高いことが分かります。

## 3 通学

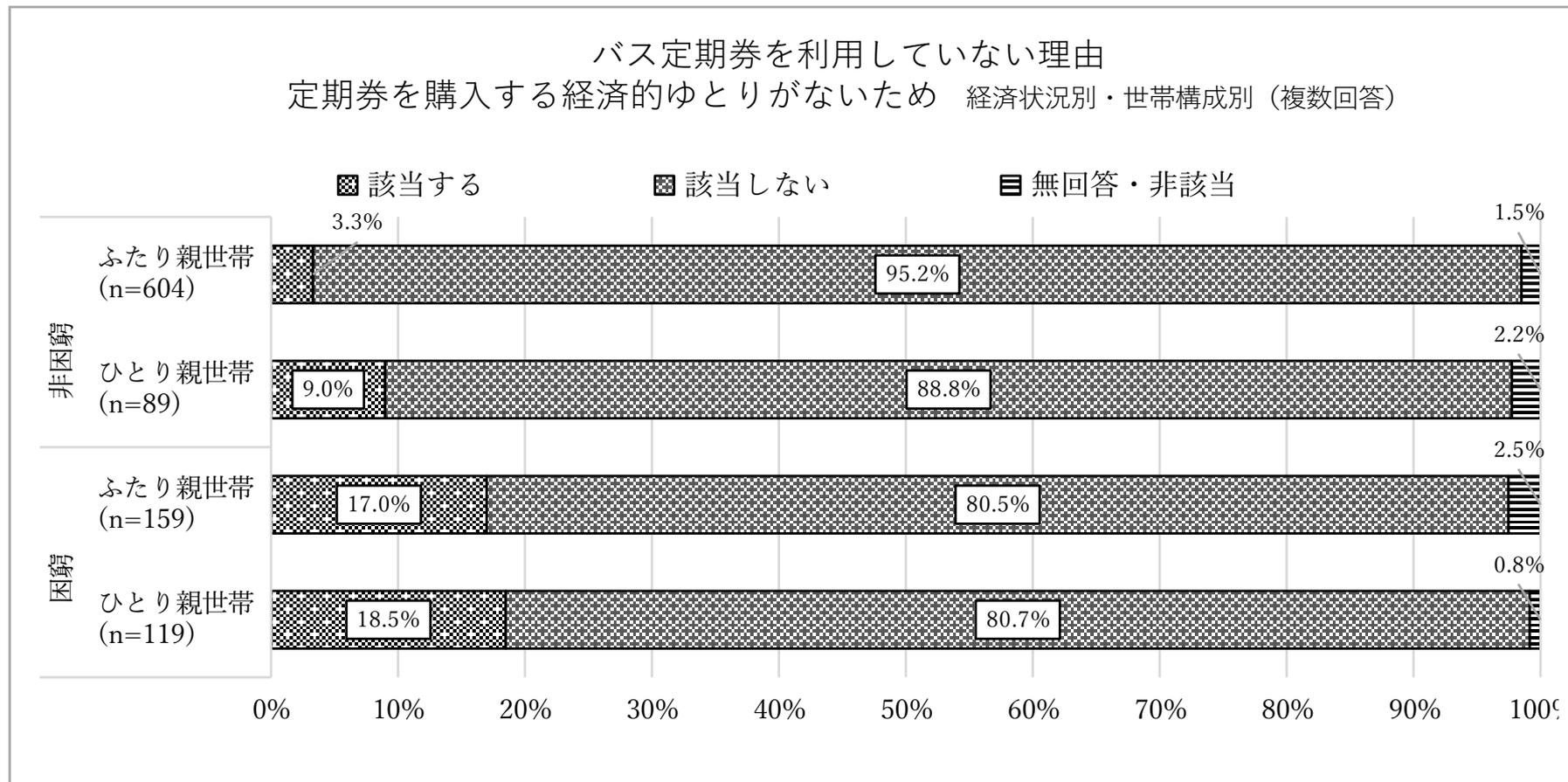
## 3-3 バス定期券の利用【図3-3-1】



バス定期券の利用について、「困窮」世帯に比べ「非困窮」世帯の方がバス定期利用の割合が若干高いことが伺えます。

## 3 通学

## 3-3 バス定期券の利用【図3-3-2】



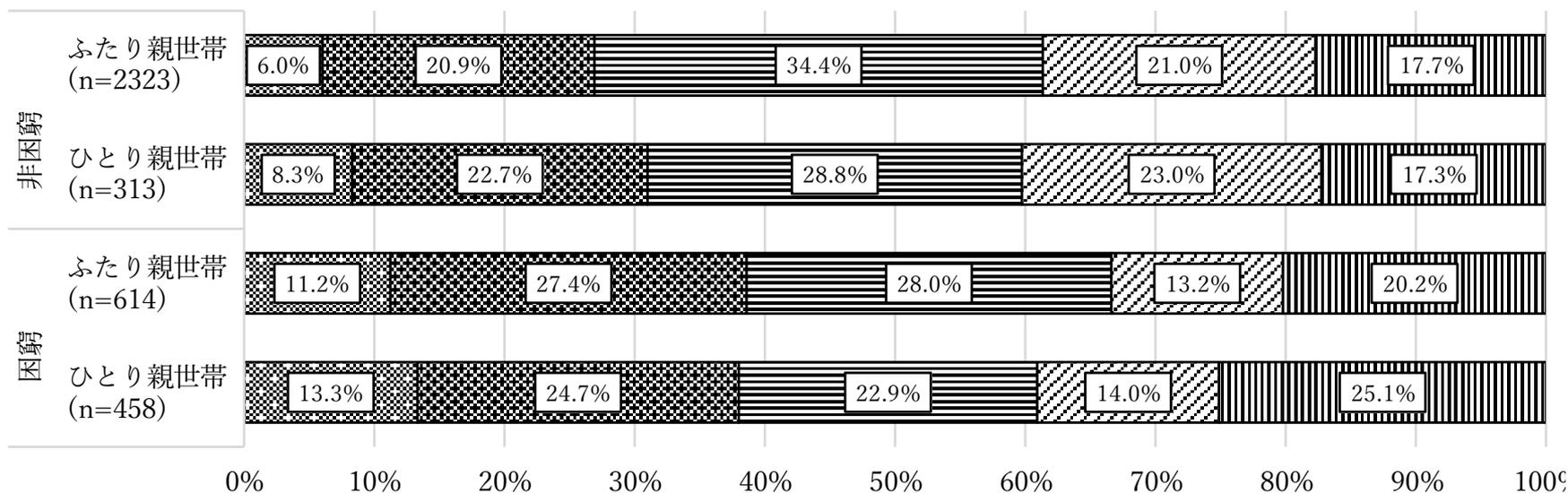
バス定期券を利用していない理由のうち、「定期券を購入する経済的ゆとりがない」ことが該当するかどうか尋ねたところ、該当する割合は、「困窮」世帯のほうが顕著に高いことが分かります。また、世帯構成も影響を与えており、ひとり親世帯のほうが該当する割合が高いことが見て取れます。

## 3 通学

## 3-4 通学費が高校進学に与える影響【図3-4-1】

通学交通費の負担は、高校進学の際の選択材料となっていましたか  
経済状況別・世帯構成別（○はひとつ）

■ 非常に重視した ■ やや重視した ■ あまり気にしなかった ■ まったく気にしなかった ■ 無回答・非該当



保護者に対して、「通学交通費の負担は、高校進学の際の選択材料になっていましたか」と尋ねたところ、経済状況の違いが影響を与えていることが分かりました。

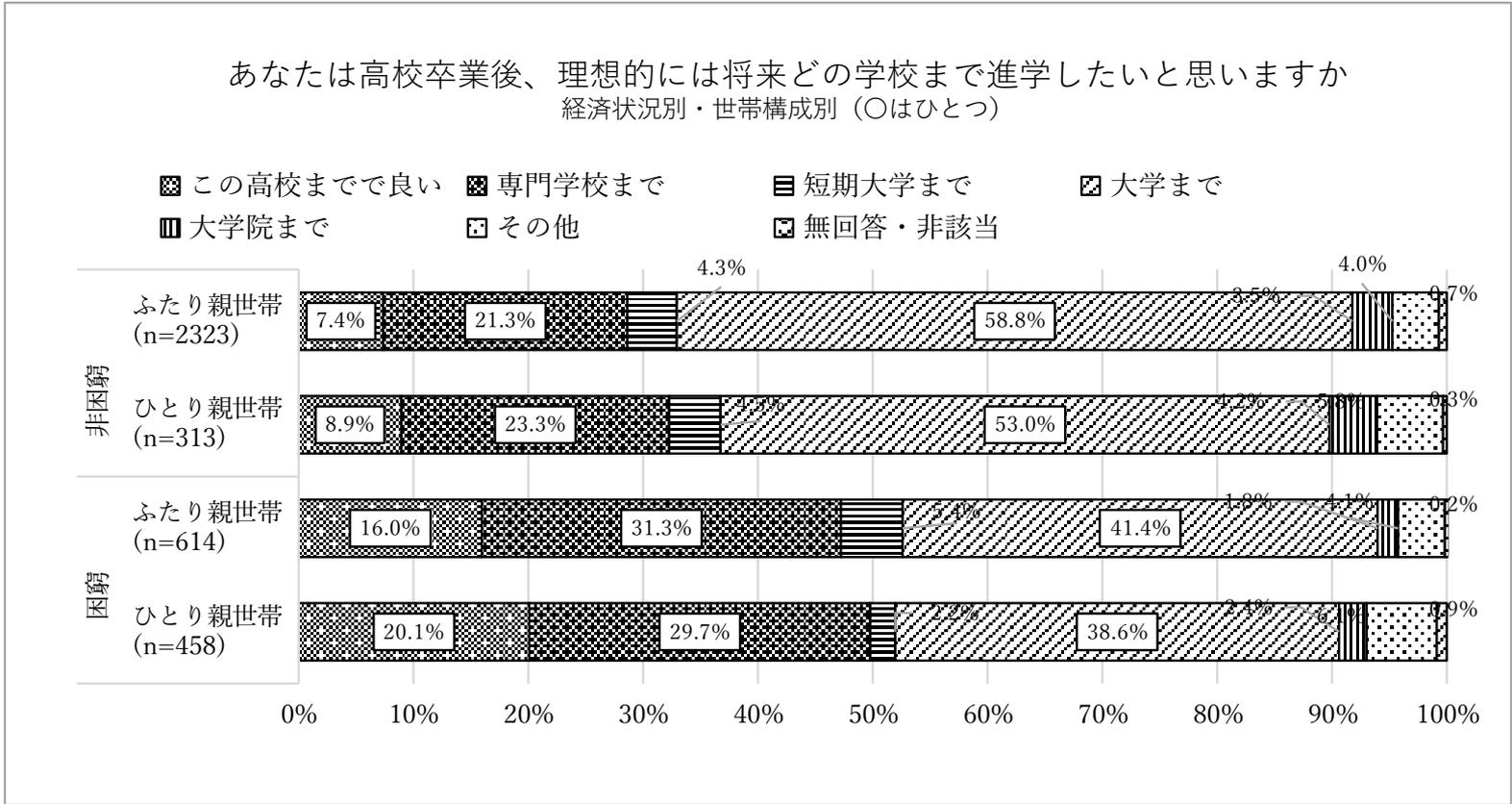
「非常に重視した」「やや重視した」割合は「困窮」世帯で高く、「あまり気にしなかった」「まったく気にしなかった」割合は、「非困窮」世帯で高いことが伺えます。

## 4 将来(進学・進路の希望)

---

# 4 将来(進学・進路の希望)

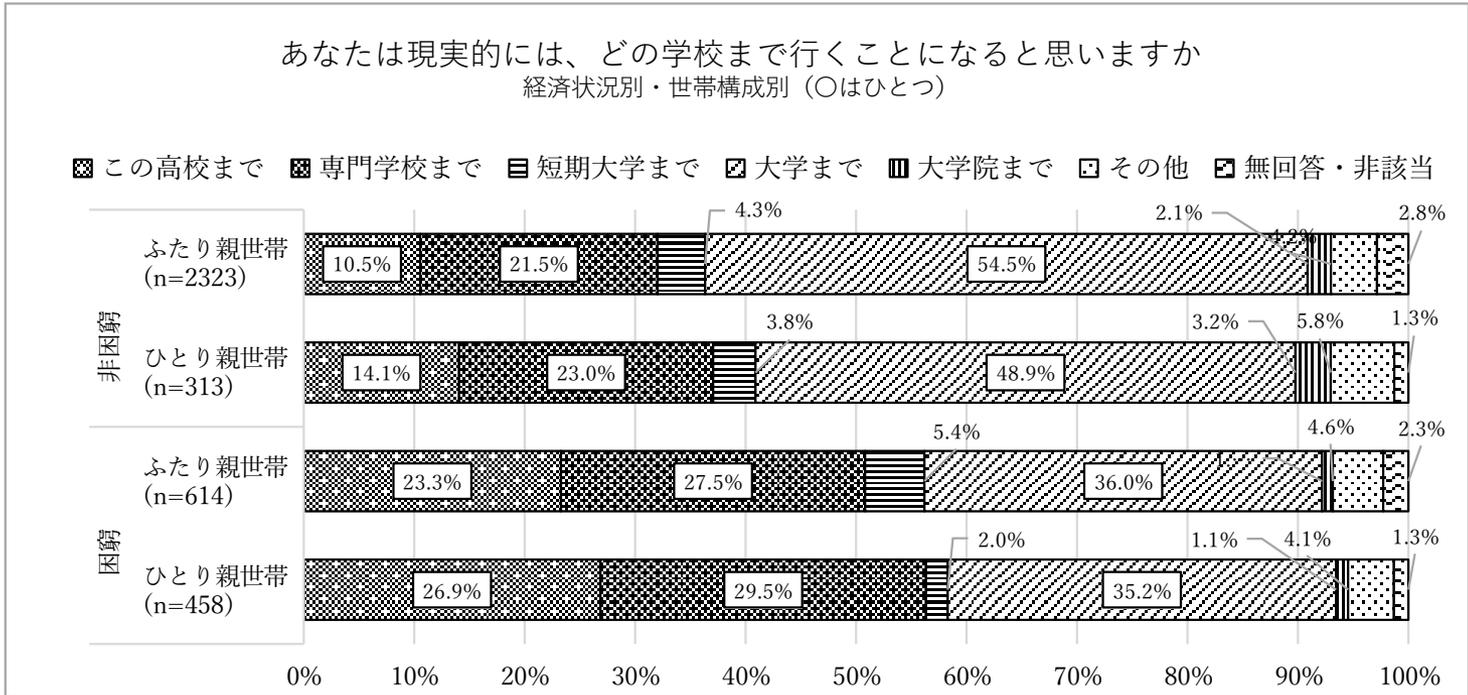
## 4-1 進学に関する理想と現実【図4-1-1】



すべての対象高校生に「高校卒業後、理想的には将来どの学校まで進学したいと思いますか」と尋ねたところ、非困窮世帯よりも困窮世帯が、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が「この高校までで良い」を選ぶ割合が高く、「大学まで」を選ぶ割合が低いことが分かります。

# 4 将来(進学・進路の希望)

## 4-1 進学に関する理想と現実【図4-1-2】



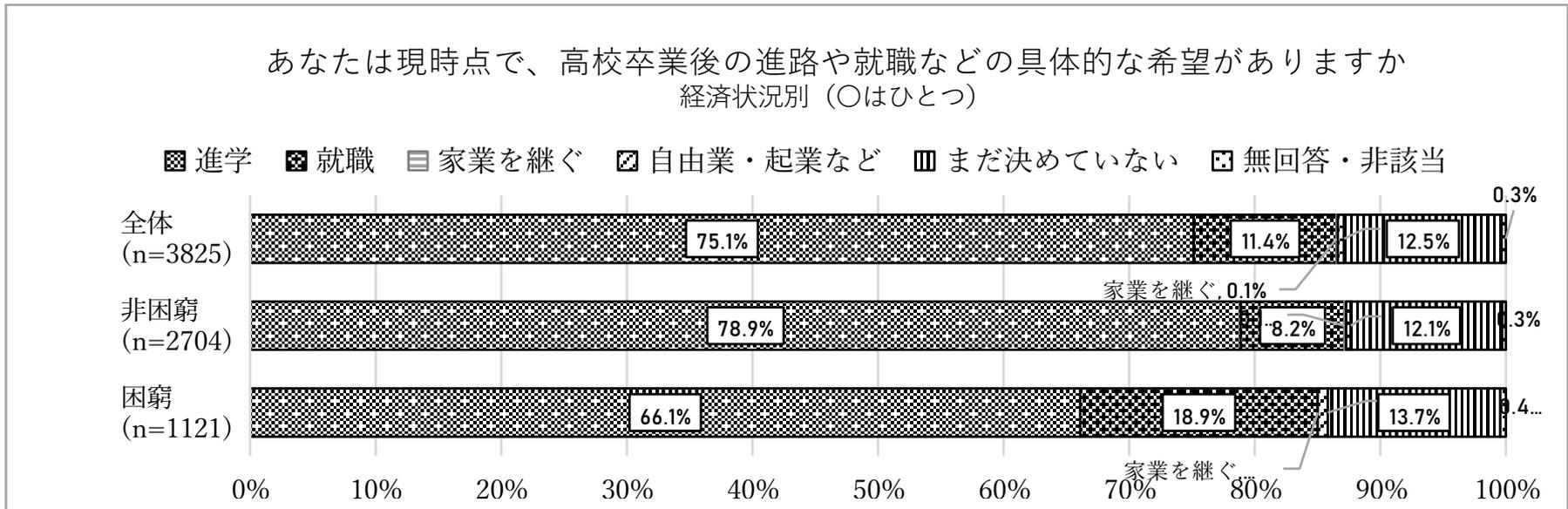
すべての対象高校生に「高校卒業後、現実的には将来どの学校まで進学したいと思いますか」と尋ねたところ、非困窮世帯よりも困窮世帯が、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が「この高校までで良い」を選ぶ割合が高く、「大学まで」を選ぶ割合が低いことが分かります。

また、「理想的に」と「現実的に」で差が顕著に広がっているのも、「この高校までで良い」と「大学まで」の割合であることが分かります。さらに、「現実的に」で「この高校までで良い」の割合が増えても「専門学校」「短期大学」の割合はあまり増加していないことも見えます。

進学を希望(理想)する時点でも、経済的・世帯構成的な要因は、ともに影響を与えていること、さらに、現実では、その差は広がる傾向が見え、大学の進学はあきらめる生徒はより増加することが、判明したと言えます。

## 4 将来(進学・進路の希望)

### 4-2 高校卒業後の進路や就職などの具体的な希望【図4-2-1】 ※再掲



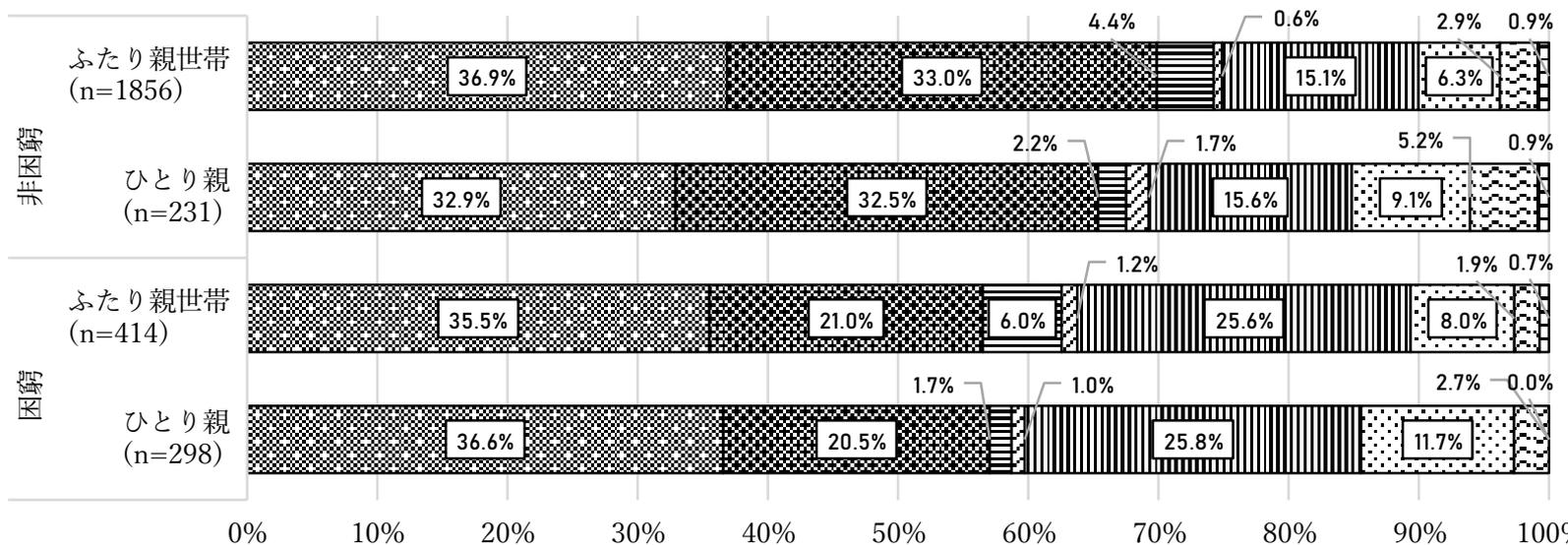
高校生本人に「あなたは、現地点で、高校卒業後の進路や就職などの具体的な希望がありますか」との質問に対する回答を経済状況別(非困窮・困窮)に見たところ、経済的な格差が進路や就職などに影響があることが伺えます。経済的に「困窮」している世帯では、「進学」と回答した高校生は、そうでない世帯(「非困窮」と比べ、約13%少なく、「就職」と回答する高校生は約11%多いことが分かります。また、「まだ決めていない」高校生の割合にも差が少し見られます(1.6%)。

## 4 将来(進学・進路の希望)

## 4-3 高校卒業後の第一志望の進学先の希望【図4-3-1】

進学を希望する生徒・第一志望の進学先を教えてください  
経済状況別・世帯構成別 (〇はひとつ)

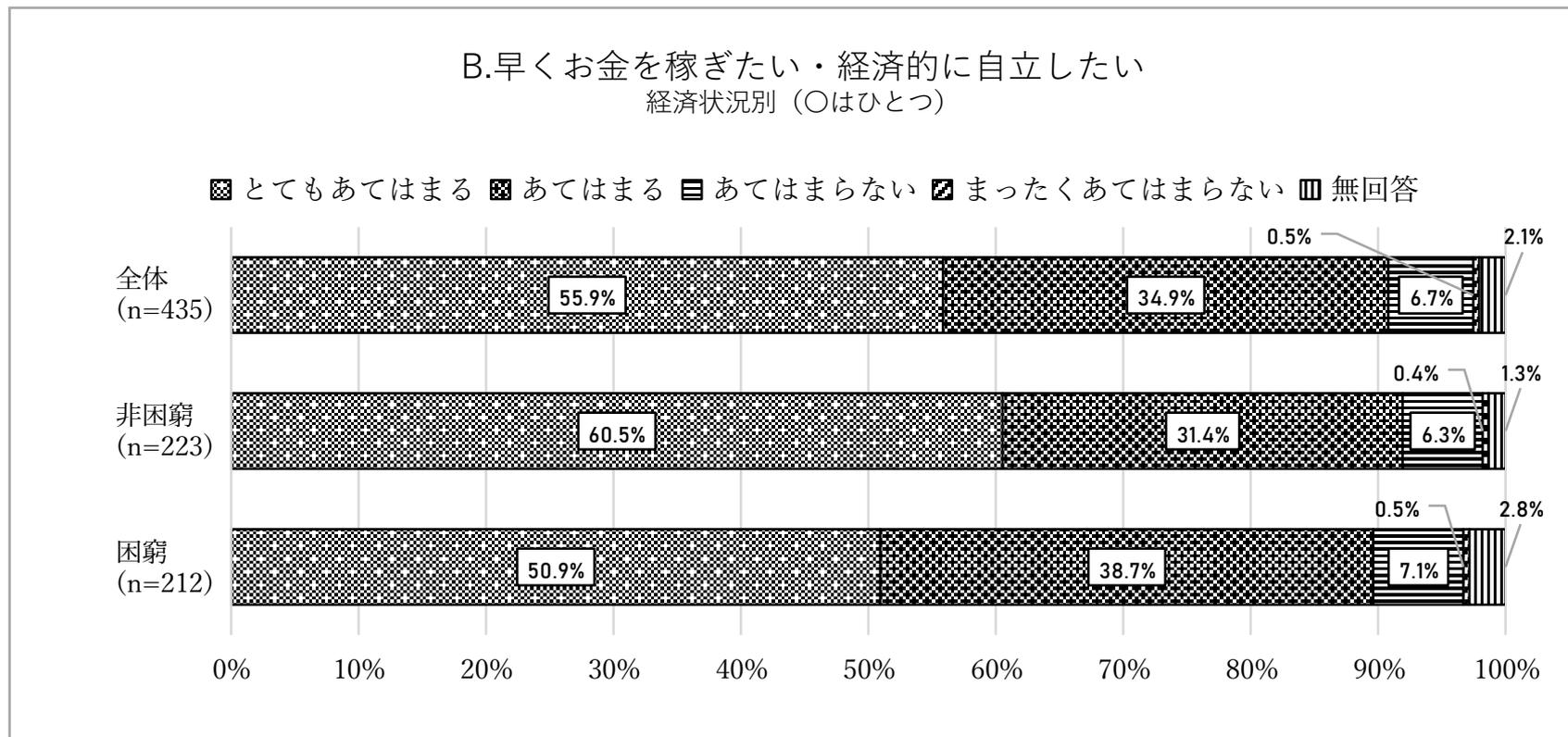
■ 県内大学 ■ 県外大学 ■ 県内短大 ■ 県外短大 ■ 県内専門学校 ■ 県外専門学校 ■ その他 ■ 無回答・非該当



「進学」を選んだ高校生本人に第1希望の進学先について尋ねたところ、「県外大学」と「県内専門学校」で差が顕著に見られることが分かります。「困窮」世帯に比べ「非困窮」世帯で(ふたり親世帯・ひとり親世帯ともに)、「県外大学」を選んでいる高校生の割合が高く、「県内専門学校」を選んでいる高校生の割合が低い状況になっています(それぞれ約10%の差)。

## 4 将来(進学・進路の希望)

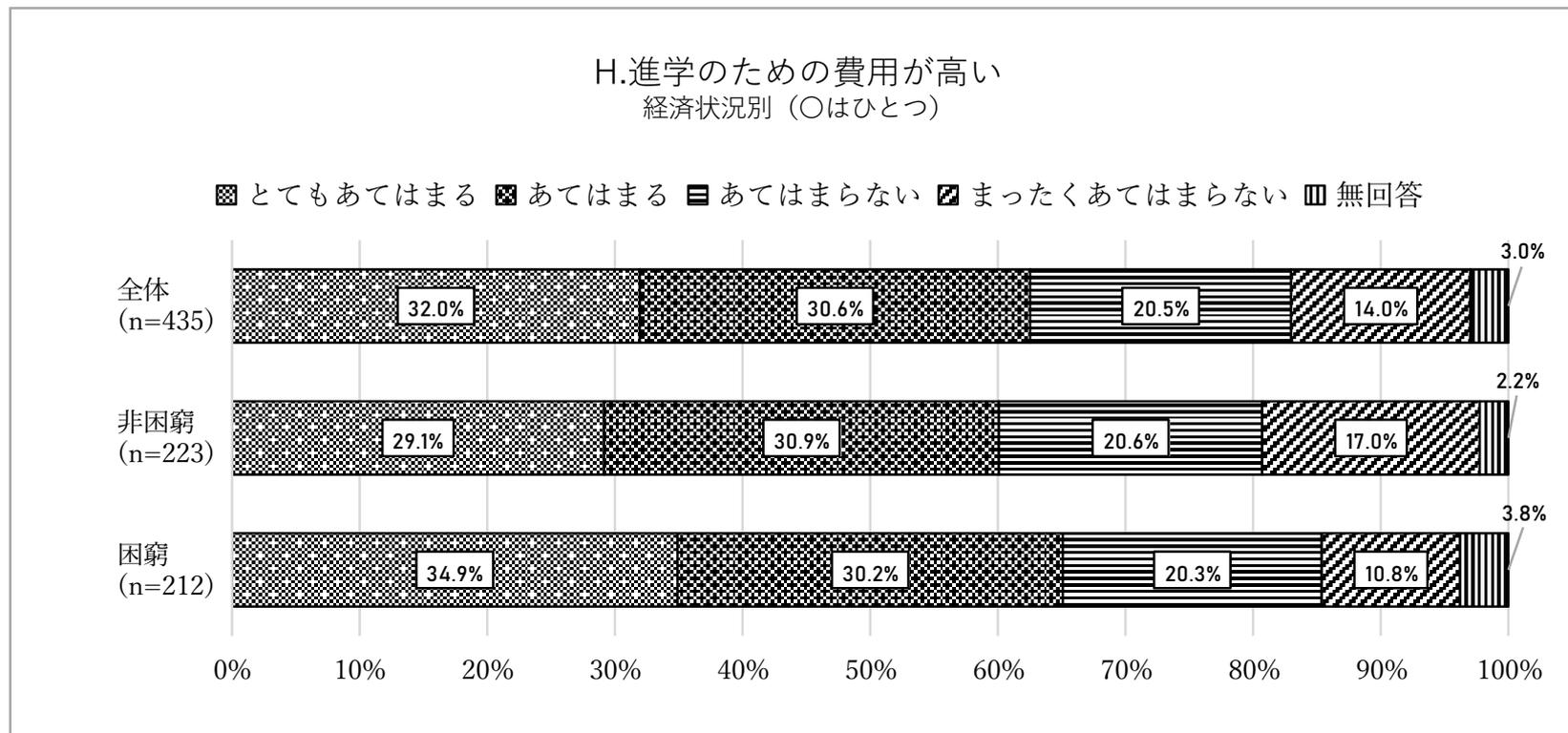
## 4-4 就職を希望する理由【図4-4-8】



進路として「就職」を選んだ高校生本人に就職を希望する理由について、どの程度あてはまるかを尋ねたところ、「非困窮」世帯と「困窮」世帯間で、「とてもあてはまる」+「あてはまる」の категорияで差が見られるのは、「B. 早くお金を稼ぎたい・経済的に自立したい」などで「非困窮」世帯の割合が高いことが伺えます。

## 4 将来(進学・進路の希望)

### 4-4 就職を希望する理由【図4-4-8】



進路として「就職」を選んだ高校生本人に就職を希望する理由について、どの程度あてはまるかを尋ねたところ、「非困窮」世帯と「困窮」世帯間で、「とてもあてはまる」+「あてはまる」の категорияで差が見られるのは、「H.進学のための費用が高い」などで「困窮」世帯の割合が高いことが伺えます。

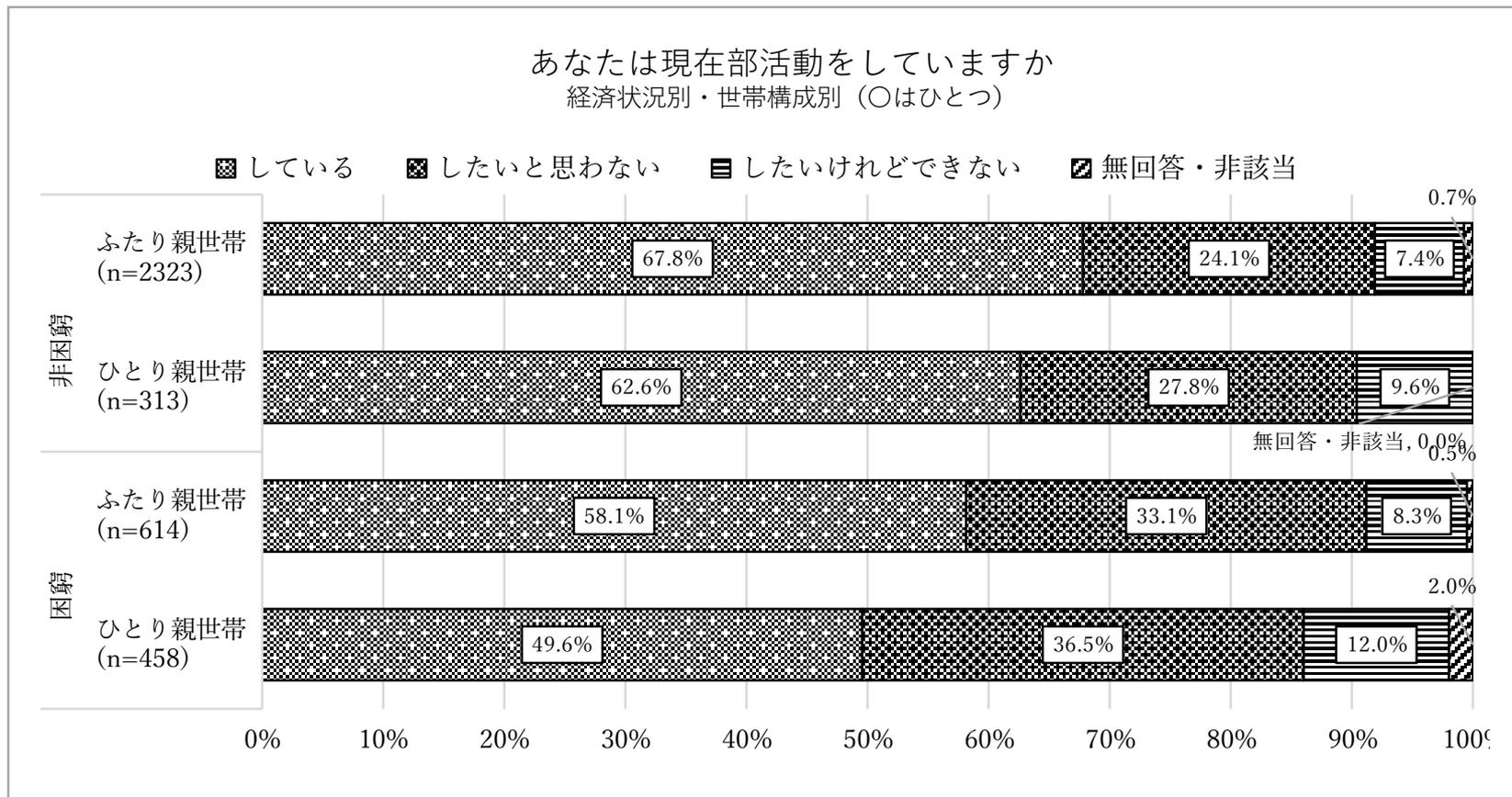
進学でなく就職を選ぶ理由として、就職することを早く自立したいなど積極的な理由で就職を選ぶ傾向があるのが、「非困窮」世帯の高校生であり、進学の費用(交通費を含む)など経済的な理由からやむをえず、就職を選ぶ傾向があるのが、「困窮」世帯の高校生であるのが分かります。

# 5 部活動・就労(アルバイト)

---

## 5 部活動・就労(アルバイト)

## 5-1 部活動の状況【図5-1-2】

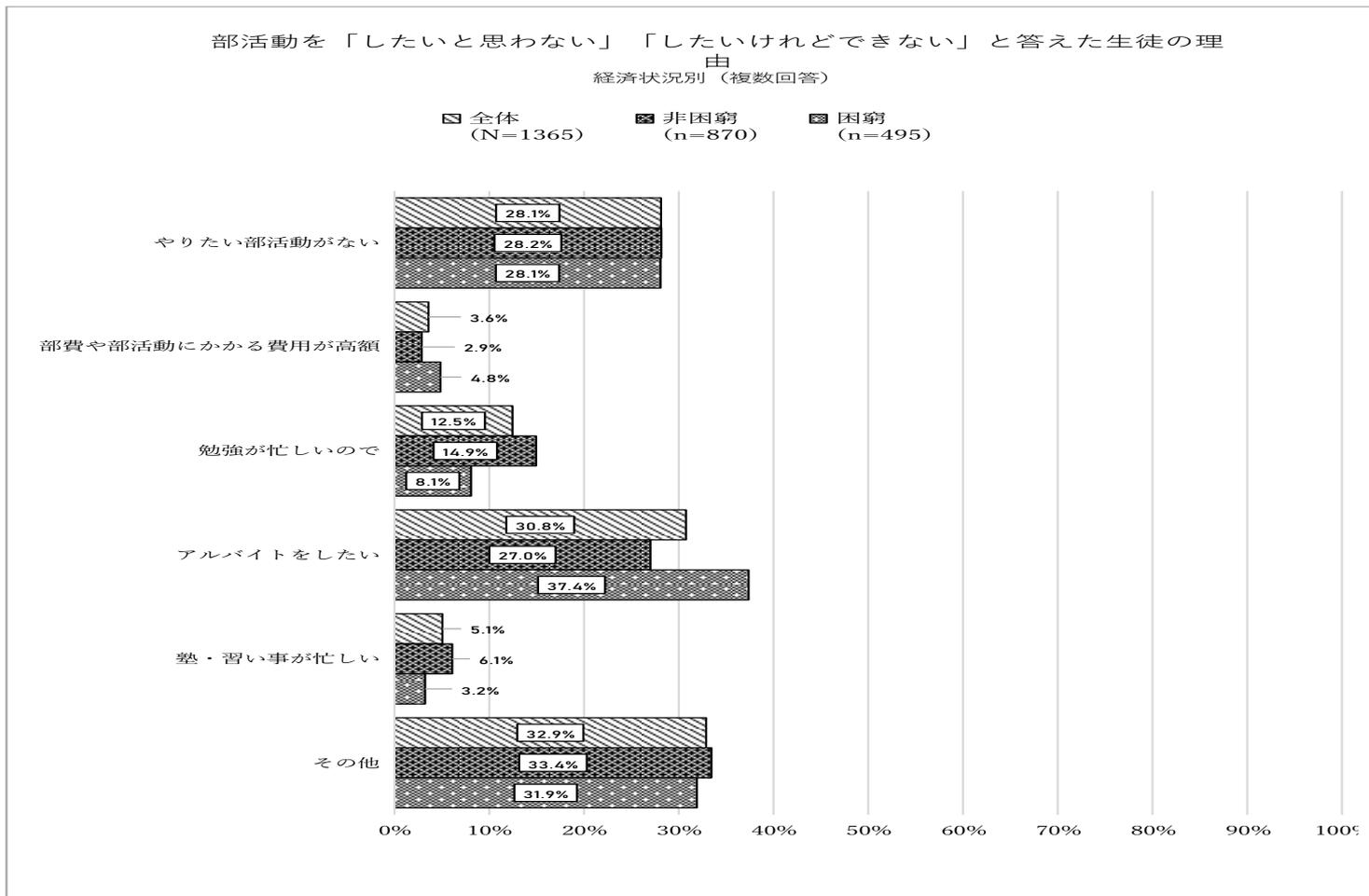


経済状況別・世帯構成別にみると、部活をしている者の割合は、「非困窮世帯(ふたり親)」で最も高く67.8%、「困窮世帯(ひとり親)」で最も低く49.6%でした。

「したいけれどできない」という回答は、「非困窮世帯(ふたり親)」では7.4%であるのに対し、「困窮世帯(ひとり親)」では12.0%と1割を超えています。

## 5 部活動・就労(アルバイト)

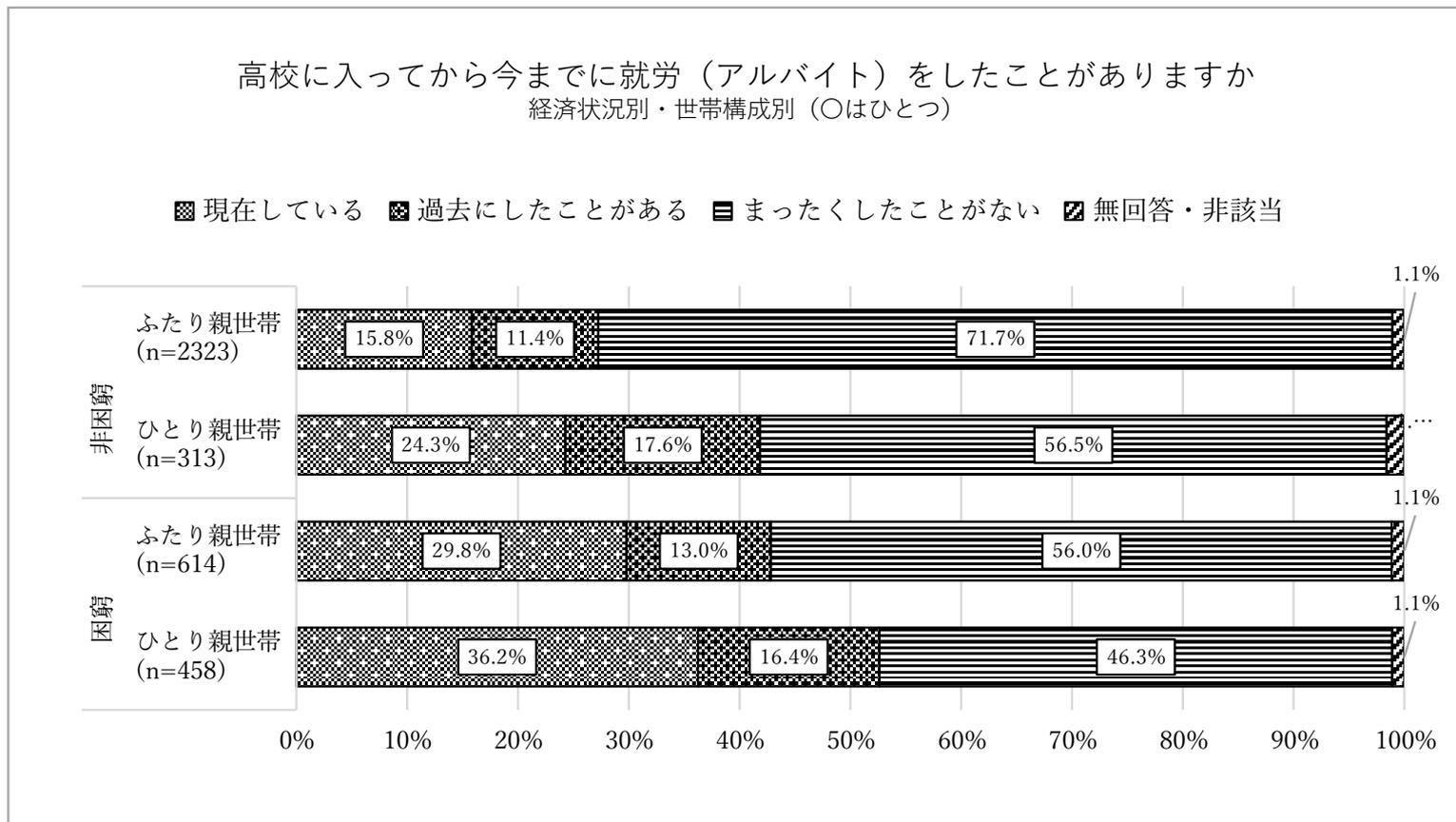
## 5-1 部活動を「したいと思わない」「したいけれどできない」と答えた理由【図5-1-4】



「部活動をしたいと思わない／したいができない」と回答した高校生にその理由を尋ねたところ、困窮世帯では非困窮世帯に比べて「アルバイトをしたい」「部費や部活動にかかる費用が高額」がやや高くなっています。

## 5 部活動・就労(アルバイト)

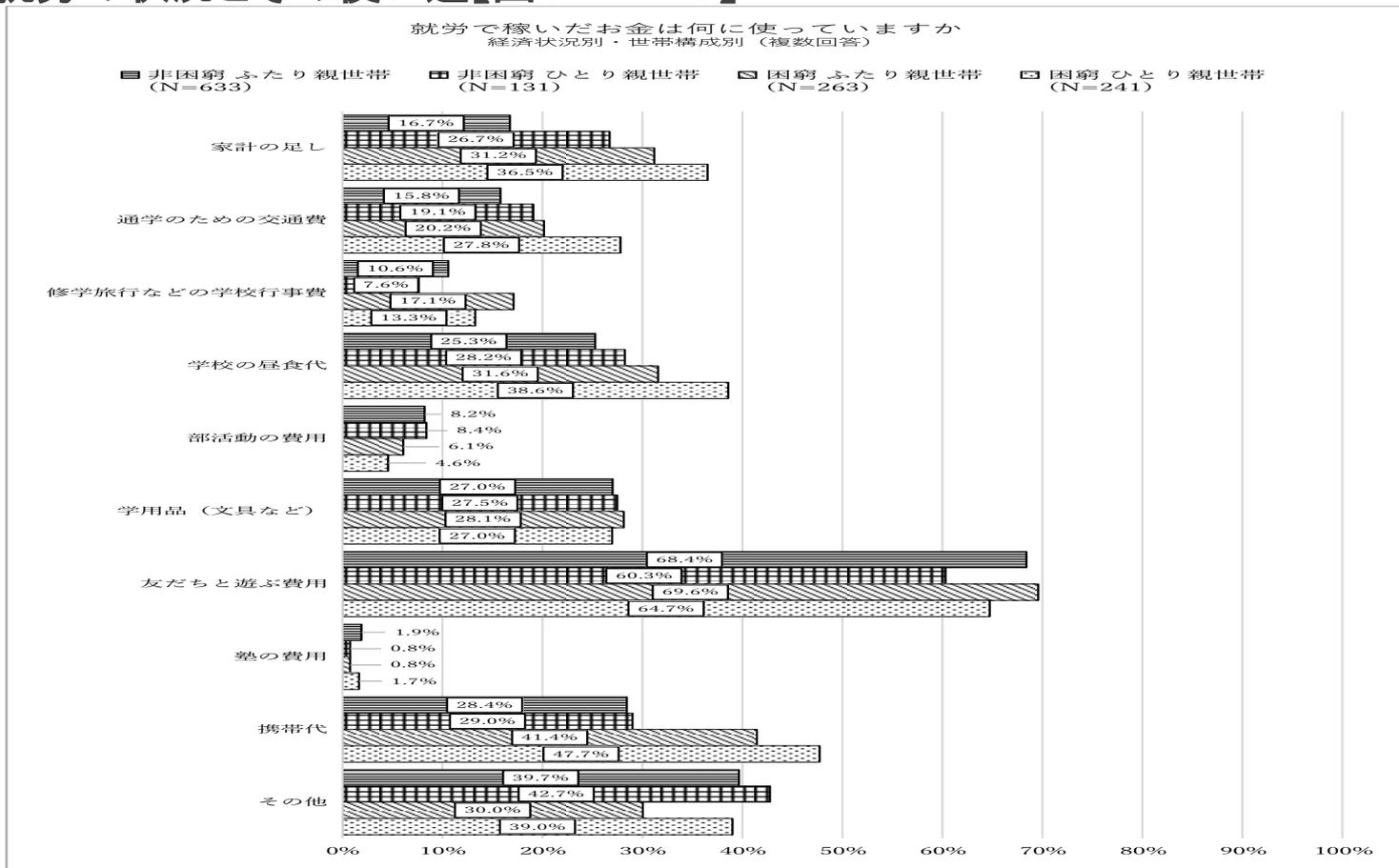
## 5-2 就労の状況とその使い途【図5-2-2】



経済状況・世帯構成別にアルバイト経験をみると、「まったくしたことがない」高校生は、「非困窮世帯（ふたり親）」では71.7%であるのに対し、「困窮世帯（ひとり親）」では46.3%と差が大きくなっています。一方、「現在している」高校生は、「非困窮世帯（ふたり親）」では15.8%であるのに対し、「困窮世帯（ひとり親）」では2倍以上の36.2%という高さです。

## 5 部活動・就労(アルバイト)

## 5-2 就労の状況とその使い途【図5-2-3】



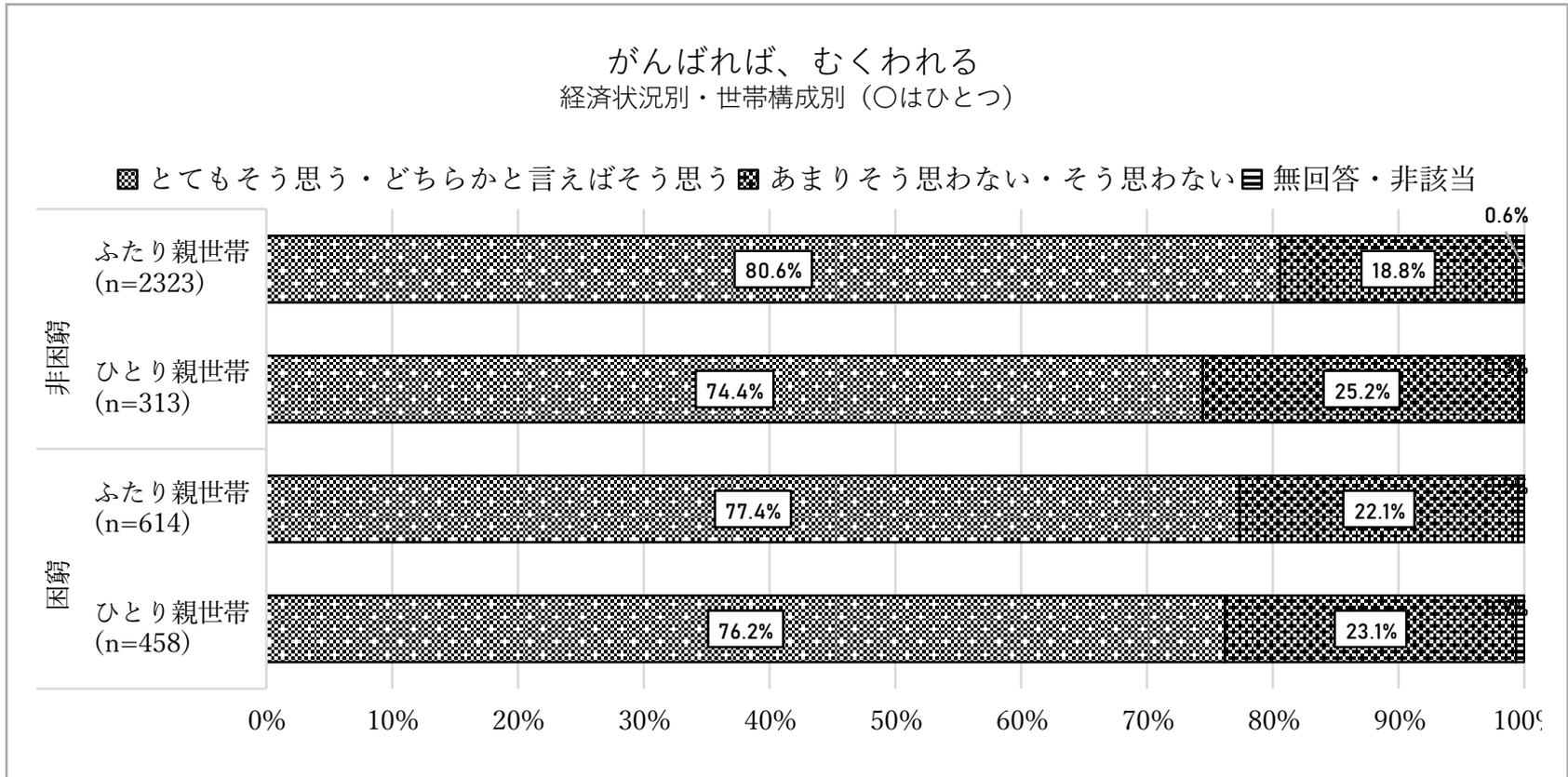
アルバイトで稼いだお金の使いみちを複数回答で尋ねた結果、もっとも多いのが「友だちと遊ぶ費用」(約6~7割)であるものの、家計や学校にかかる費用にあてている高校生が一定数いることが把握されました。困窮世帯では、「家計の足し」「学校の昼食代」にあてている高校生が3~4割、「通学のための交通費」「学用品(文具など)」にあてている人が2~3割のほか、「修学旅行などの学校行事費」にあてている人が1~2割となっています。

# 6 自分(自己肯定感)

---

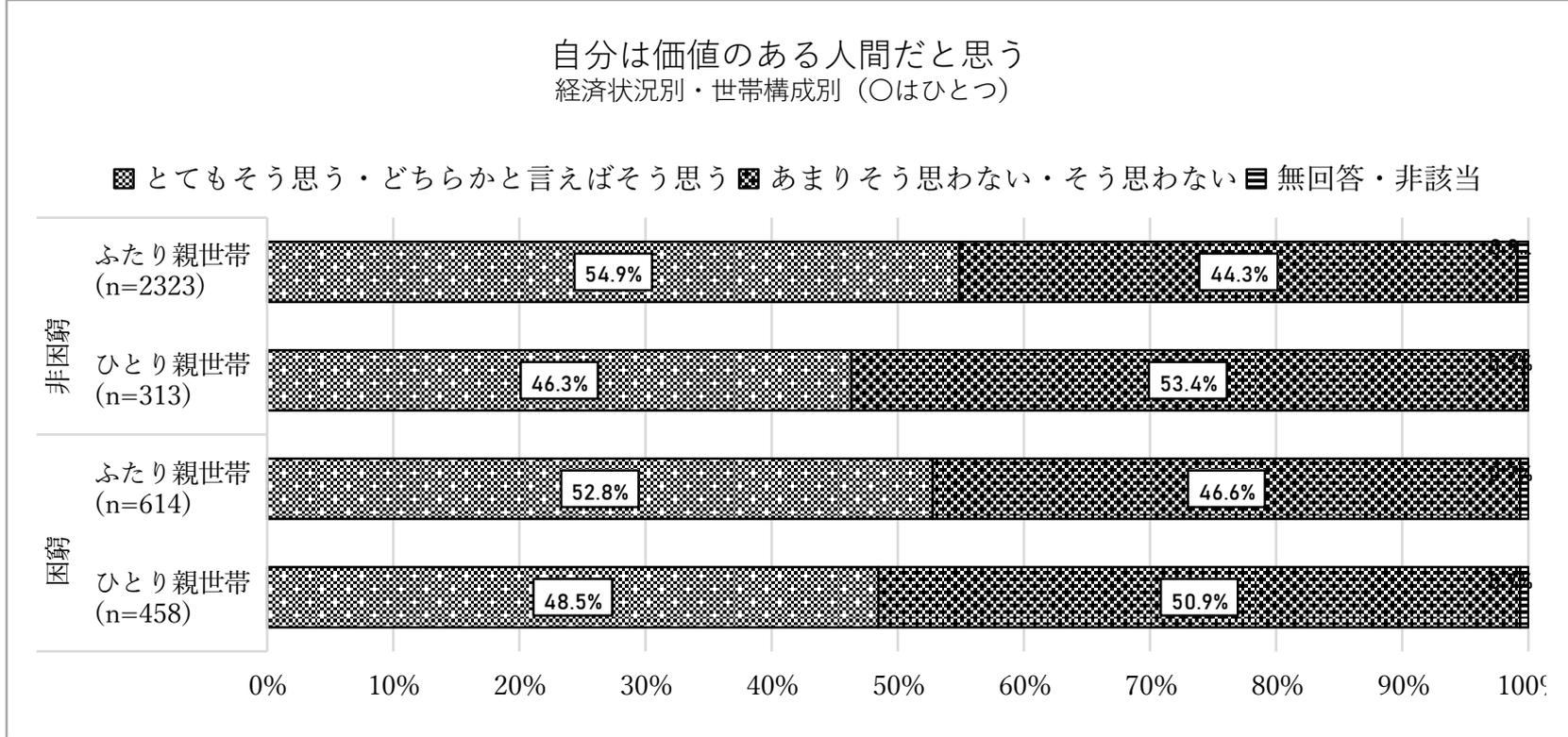
# 6 自分

## 6-1 思い・気持ち【図6-1-1】



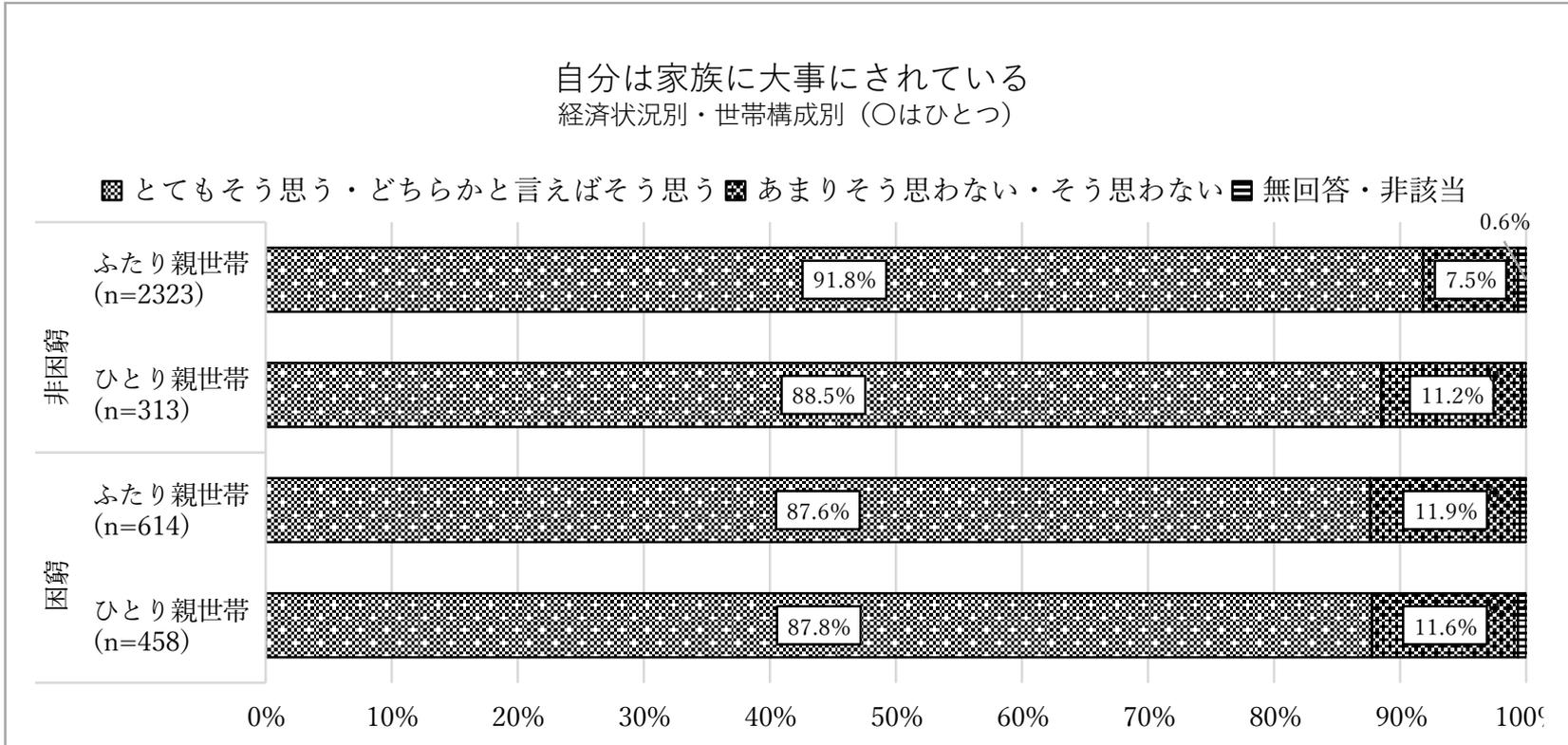
# 6 自分

## 6-1 思い・気持ち【図6-1-2】



# 6 自分

## 6-1 思い・気持ち【図6-1-3】



## 6 自分

## 6-1 思い・気持ち【図6-1-6】

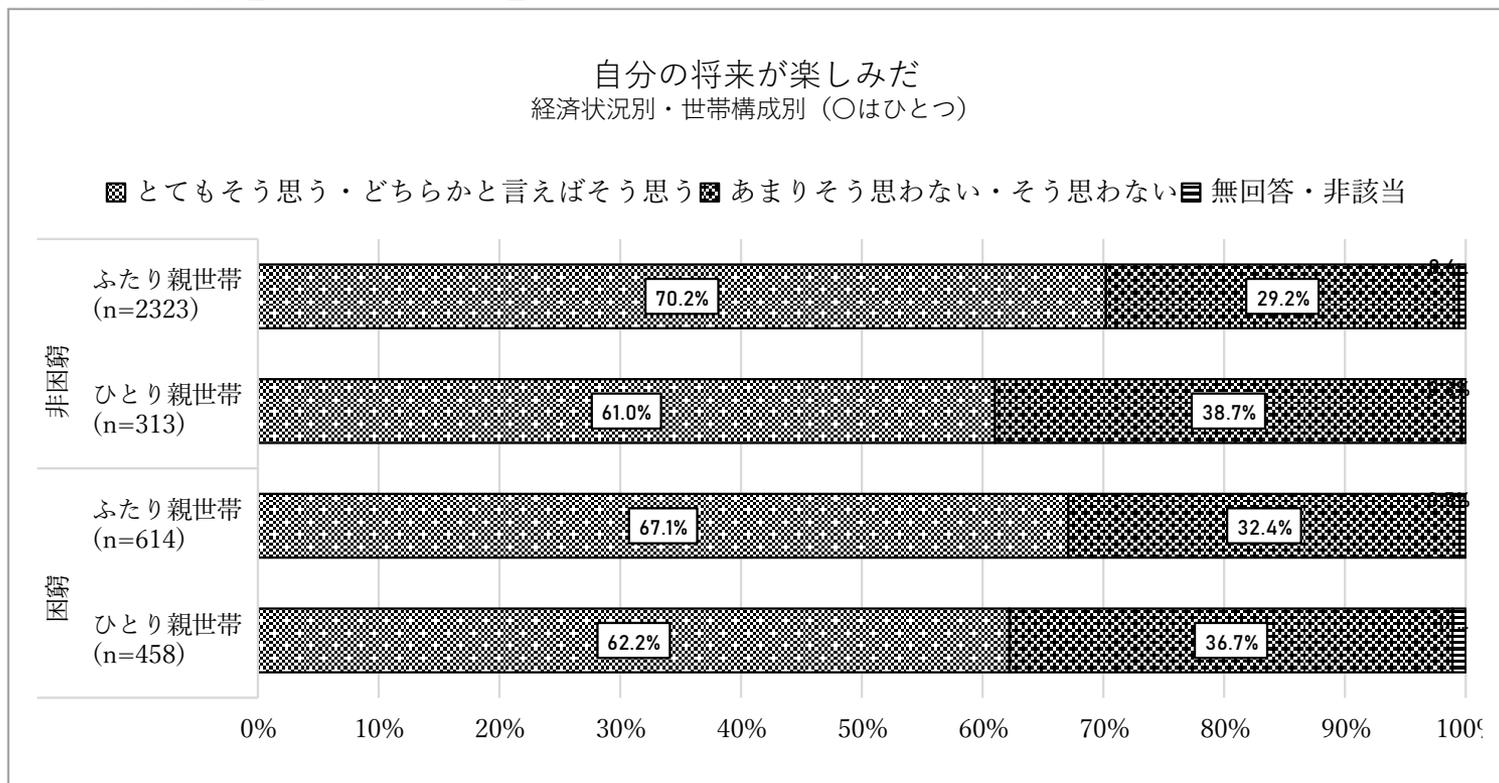
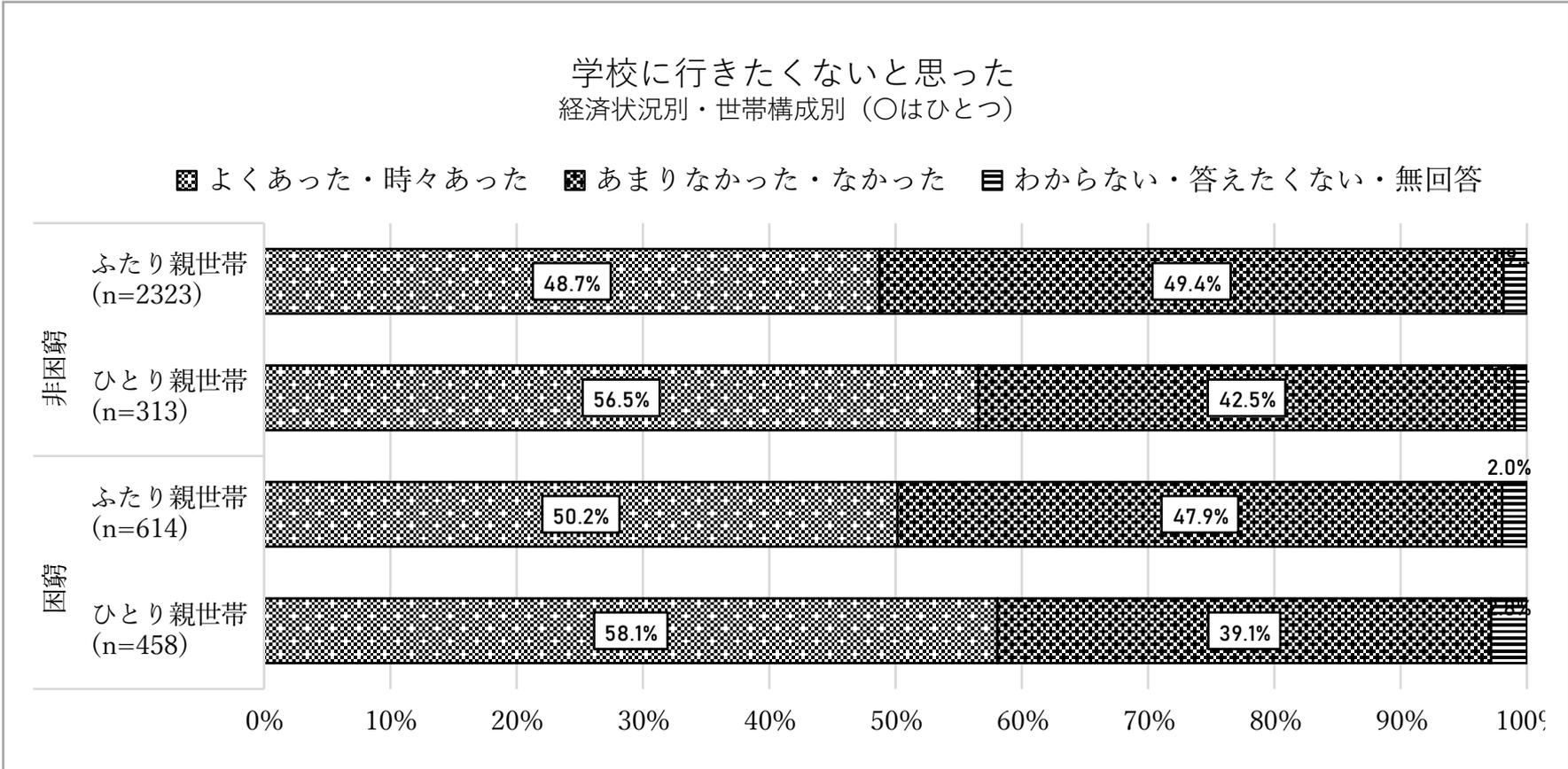


図6-1-1から図6-1-6までは、高校生本人のいわゆる自己肯定感を見たもので経済的状況と世帯構成の違いで4つにカテゴリー化しています。

経済的状況が明確に影響していると思われる項目は、「自分は家族に大事にされている」(非困窮世帯のほうがポジティブな答えの割合が高い)を除くとありませんでしたが、世帯構成が影響している項目がいくつか見られることが分かりました。それらの項目では、ひとり親世帯と比較してふたり親世帯のほうがポジティブな答えの割合が高いことが伺えます。

# 6 自分

## 6-2 学校生活【図6-2-1】



## 6 自分

## 6-2 学校生活【図6-2-4】

学校をやめようと思った  
経済状況別・世帯構成別（〇はひとつ）

■ よくあった・時々あった ■ あまりなかった・なかった ■ わからない・答えたくない・無回答

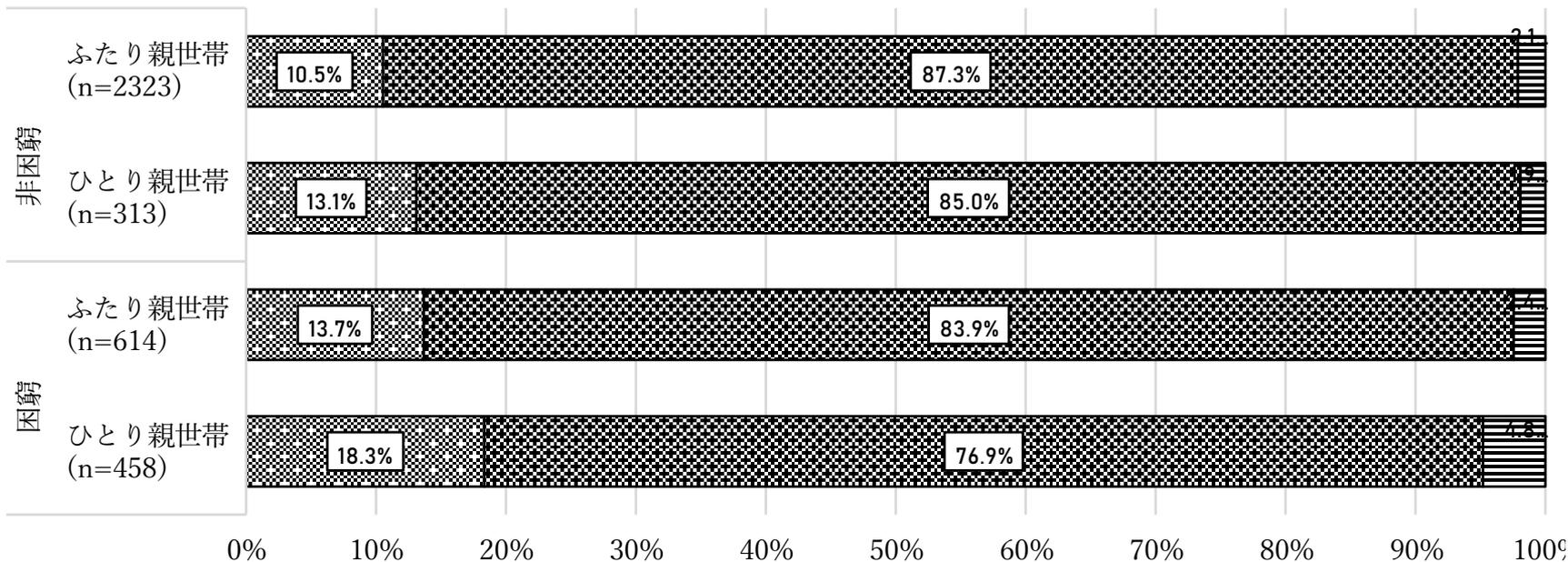


図6-2-1から図6-2-4では、経済的状況と世帯構成の違いで4つにカテゴリー化して結果を示しています。程度はさまざまですが、経済的状況は影響があることがあり、「困窮」世帯のほうが「非困窮」世帯に比べ、あったと答える割合が高いことが伺えました。また、「いじめられた」（非困窮世帯でふたり親世帯のほうがあったが高い）を除くと、ひとり親世帯の方があったと答える割合が高いことが見えます。

# 7 自由記述欄 (保護者)

---

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【就労・所得に関すること】

①子どもの貧困対策に、ぜひ労働基準監督署など労働に関係する方々も入れて練って欲しいです。賃金が低過ぎたり、正社員と非正規の給与と、それ以外の”手当”の格差も是正して欲しいです。非正規は給与は同じくらいでも、皆勤手当、家族手当、通勤手当、賞与など全く無いです。

②共働き世帯ですが、休まず働き続けても賃金が安い為生活が苦しいです。家賃や物価が高い(食料、日用品、その他)こともあり、その日その日の生活をするので精一杯。贅沢な暮らしはできませんが、笑顔の子ども達に救われています。高校生にもなれば、手当は、全くなく、これから進学したいという本人の気持ちに答えてあげたいですが、今の生活からは無理です。本人も気づき、半ば諦めているのか……。親としては情けないです。

③県外に比べると沖縄の給与・賃金はかなり低いと思う。親はなるべくは子供には充分にやってあげたいと想う気持ちが強い。その分、親自身かなり我慢している部分も多い。子供が希望する教育機関へ充分に進めることができるよう、県・国の援助をもっと増やしてほしい。切なる想いです。

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【高校の通学・交通費に関すること】

- ① バスの利便性が悪すぎ、希望する高校への進学をあきらめました。多少遠方でも通学に対応できるような公共の移動手段があったら良かったと思う(循環バスなど含めて)
- ② 交通費について回数券の方が割引額が大きくて良かった。オキカは、利用額による割引率が低すぎる。回数券並の割引があればバスの利用回数が増えると思う。オキカになってから、バス通学から車での送迎をする親が増えたように思う。
- ③ 沖縄県はバス代が高く、生活に負担が大きいです。県外に住んだことがあります。他県では学生バス券と言うものがあり、一日何回使用しても500円とか、定期券などもすごく安いです。バス代が高いため、学校から習い事に行く日はなるべく乗り換えをしないようにバス停まで30分くらい歩いたりとか、2時間くらい待てば親が学校の近くを通るから(どこかで時間をつぶして待ってなさい)と待たせておいて一緒に帰ることでバス代を浮かしたりしています。これから進学をして大学まで、バスを利用するにもとても負担になるのでバス料金の値下げを検討していただきたいです。

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

## 【教育関連費用に関すること】

①義務教育だというのに制服、体育着、副教材等、ものすごく費用がかかりすぎていると感じます。生活困窮者に対する制度が充実してきつつありますが、両親共働きでも余裕がなく、ギリギリの生活をしている人はたくさんいます。親の収入に関係なく子供は全て平等であるべきであるし、教育費がかからない制度を作ってほしいです。私は生活保護の仕事に長年携わっていますが、給食費、副教材代、制服代、等、ちゃんと支給されているのに保護を受けてないギリギリの生活をしている世帯の子ども達はその費用さえも払えず苦しんでいることを理不尽に感じました。子どもは全て平等に教育を受ける権利があります。

②経済的理由で子供が心細い思いをしたり、進路を変更、断念することがないよう、教育、医療のほとんどを無料化できると良い。学用品、制服、部活動費についても。夕方から就寝まで、子供のみで寂しい思いをしている子のための居場所づくりが大切。また、親がいても虐待や様々な理由で家にいたくない子供のための居場所やケアは必要。親が長時間労働しなくても良いような援助がもっと必要。

③学校に通う際に必要な支払いは全て無料にしてほしい。校納金、教科書代等。大学に関しても給付型奨学金を拡充してほしい。

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

## 【学校関連・部活・塾に関すること】

① 塾に通わせていて、家庭の負担が大きい。お金がない家庭でも平等に教育できる方法を知りたい。

経済的に、厳しい家庭では、いい教育ができない現状を改善して頂きたい。（成績が優秀な場合、個人的に通っている塾の負担額を補助する制度を作って欲しい）（案）将来、地元に戻ってきて就職した場合、返金しなくても良い、など。

② 学習塾が当たり前になっている感じですが、自主学習できる子は良いが出来ない子に個別学習塾に通わせたいのに高すぎて、1人子なら良いが2～3人だとなおさら出来なくて親としてなさけない！！「こんな貧乏な家に生まれなければ良かった。」と1番下の子供に言われました。小学校から1クラス15人で小人数制か放課後学習（塾の様な物）があれば低所得の私たちも助かる！！

③ 部活動に関する費用負担が親世代の頃より大きくなっている。県外の大学進学の仕事負担が大きい。学校外（塾）学習が当たり前になっている。

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【進学・将来に関すること】

- ① 進学させたいが経済的にキビしい現状の家庭は多数かと思う。大学、専門校、等の学費を無料にすれば将来子供達の可能性広くなると思います。
- ② 高校・大学の学費が無償化になってほしいです。子供が県外の大学に進学を希望しても、経済的には厳しいため、県内で行ける大学・専門学校を探してほしいと、話しています。奨学金も、借金となるため不安に感じます。
- ③ 進学を希望する学生で家計が厳しい家庭であれば、一人も漏れることなく補助金等の制度を利用させてもらいたいです。現在私たちも子供が県外の専門学校への進学を希望していますが、家庭は火の車で学費が出せない状況です。だからといって子供の芽をつむことができません。何とか希望を叶えてやりたいと思っています。今そのことで、とても悩んでいます。どうか、子供たちが夢に向かって進めるような制度を増やしていただきたいです。よろしく願いいたします。

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

## 【支援制度等に関すること】

- ① 経済的なことで、子供にあきらめさせることがないように、給付型の奨学金などの制度を考えてほしい。
- ② 家庭の事情で、大学進学を諦め、就職する学生が多くなってきています。より多くの給付型奨学金制度が充実し、より多くの子供達が、大学・専門学校へ進学できる様、国・県・企業等の支援が必要だと思います。塾にも行けず、地域で、無料塾を開校したり、必要な参考書など学校図書館で借りられる様、サポート支援が、もっと多くあればと痛感します。私自身、奨学金で高校を卒業し、親に負担をかけさせまいと、早く自立し、就職しました。我が子には、ぜひ、大学・専門学校へ進学してもらいたいと、強く思います。
- ③ 医療費の支援など市町村でまちまちなので、県が全て統一して、一定の支援をしてくれると助かります。大学進学でも出費はかかりますが、それ以前の高校生活を充実したものにするためには、経済的な支援がより必要だと感じます。特に進学校と言われる学校に通う子は、経済的な不安を抱えては、集中して学習ができない場合があります。授業料は無料ですが、教科書代、学校納金、諸費用で、月平均2～3万円の負担です。公立ですが負担大きいです。とても塾には通わせられないです。教科書代の無償化、学校納金の免除制度等があれば、負担が減るのですが…

# 保護者 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【暮らし・世帯に関すること】

① 子供が希望する高校、大学へ進学させたくても、経済的負担をやはり気にしてしまう。離島、地域に大学等がなければ、一人暮らしするための生活費も増えてくるとなると希望していてもすごく悩む。負担を軽減できるよう寮や安くて借りられるアパートの施設を多く増やしてほしい。国なので未来ある子供の為、安心して勉学できる環境を考えてほしい。

② 子育て世代において、就学支援などの制度はあるが、住居費などにも、支援制度等を考えてほしいと思います。多子世帯などは、学習においても勉強部屋が必要な為、経済的にも家庭での負担が大きいです。

③ 貧困家庭が多く見受けられる沖縄。地域と連携して相互扶助出来るように持っていったら良いですね。例えば、公民館の活用、児童館の活用等。学習スペースや、調理補助等も出来たら、勉強する習慣や、自立する意識付けにもつながると思います。

# 7 自由記述欄 (生徒)

---

# 生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【学校生活に関すること】

① 私は、中学校の頃、家も学校も嫌で、変わりたいとすら思わないような人間でした。でも、高校に入ってから、自分にできる事、やりたい事が見つかって信頼できる人達とも会えたので、変わることができました。だから、どんな人でも変わるチャンスはあると思うし、自分の将来をつぶすような事はしないでほしいです。悩んでいる学生とかが、もっと気軽に、相談できるようなサービスとかあったら、もっと変わるの早かったのかなとも思います。学校のアンケートとか、電話でSOSとか、そういうサービスもすばらしいと思うんですけど、もっと身近で支えられる方法もあるんじゃないかな？と思います。

② 進学校に通っていますが、中学と違い親が公務員や社長、医者など裕福な家族の人がとても多くて経済的な格差は、子供の学力にもつながるような気がします。大学進学のために、塾に入る人はいると思いますが、60万とかするというのは聞くとなんとか嫌な気分になります。

③ アルバイトを自由にしたいです。自分の高校は、親が公務員という理由でアルバイトができません。親が公務員だからといって家の家計にゆとりがあるわけではないです。むしろ苦しいです。自分の将来の進学にも影響が出ています。なんとか沖縄の高校生は基本アルバイト禁止というのを変えていただけないでしょうか。

# 生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【家庭の暮らし・現在に関すること】

①自分の家庭は、母だけなので、将来今の学校を卒業して、自分が行きたいと思っている大学や専門学校に行けるか心配です。もし、行けなくて、すぐ就職ってなったら、どうしようって、たまに思います。少しだけ、将来がこわいです。

②私の母は女で一つで子供3人を育ててくれています。けんかをする事もあるけど、母はいつも笑顔でふるまっています。私はそんな母を少しでも楽にさせたいと思います。今回のアンケートに回答できて良かったです。ありがとうございました。

③いろんな苦難や試練を経験して人は成長していきます。だから、ときには悩み葛藤し自問自答を繰り返すというのも必要です。私は何でも相談できる親がいて、またいつも私の心の支えとなって慰め励ましてくれる方がいます。私は本当に恵まれています。私を支えて下さる一人一人に感謝しています。今度は私がそんな心の支えとなるような人になりたいです。隣人にいつも寄り添い、何でも話を聞いて、励ましたり、ときには共に涙したり、少しでもその人の心の傷を癒せる人になりたいです。ありがとうございました。

# 生徒 自由記述欄（原文より抜粋）

---

## 【進路・将来に関すること】

- ① 進路に不安はつきないけど、私は今の夢を実現させたいです。夢がやっと決まったからです。ただお金がかかるとなると、この夢もあきらめなくてはなりません。だから、そこに悩んでいます。支援があれば、私だけでなく、多くの人が夢を叶えて、国のために良い働きをしてくれると思います。
- ② 無償の奨学金をもっと増やしてくれたら嬉しいです。貧困層の負のサイクル止めて欲しいです。お金がないと進学できないので。勉強も。お願いします。
- ③ 参考書や試験を自由に受ける為に、給付型の種類・数の増加と、条件の削減を望みます。また、学生のバス無料化を希望します。
- ④ 大学進学は奨学金を使いたいが、将来に対する不安がある。給付型をぜひ拡大して欲しい。